

2022年度

**研究指導募集要項
一覽**

昼間コース

教務課学部教務係

目 次

経済学科(Economics)

天野 大輔.....	1
岩澤 政宗.....	3
江頭 進.....	4
小野塚 祐紀.....	5
佐野 博之.....	7
柴山 千里.....	8
白田 康洋.....	9
土居 直史.....	11
中村 健一.....	12
平井 進.....	13
廣瀬 健一.....	15
松家 仁.....	16
水島 淳恵.....	17
劉 慶豊.....	18

商学科(Commerce)

石井 孝和.....	19
石川 業.....	20
伊藤 一.....	22
猪口 純路.....	23
乙政 佐吉.....	24
加賀田 和弘.....	25
金 鎔基.....	26
近藤 公彦.....	27
堺 昌彦.....	29
多田 伶.....	30
中浜 隆.....	32
篠本 智之.....	33
プラート カロラス.....	34
林 松国.....	36

企業法学科(Law)

岩本 尚禧.....	37
片桐 由喜.....	38
河森 計二.....	39
國武 英生.....	40
小林 友彦.....	41
齋藤 健一郎.....	42
才原 慶道.....	44
菅沼 真也子.....	45
高橋 周史.....	47
多木 誠一郎.....	48
竹村 壮太郎.....	50
張 博一.....	52

社会情報学科

(Information and Management Science)

大津 昌.....	54
加地 太一.....	56
片岡 駿.....	58
木村 泰知.....	60
小泉 大城.....	62
佐山 公一.....	64
沼澤 政信.....	67
平沢 尚毅.....	69
深田 秀実.....	70
三浦 克宜.....	72
三谷 和史.....	74

一般教育等 (General Education)

石崎 香理.....	75
片山 昇.....	76
杉山 成.....	77
須永 将史.....	79
中村 史.....	80
西永 亮.....	81

言語センター

(Center for Language Studies)

高橋 優季.....	82
西口 純代.....	83
ホルスト マーク.....	84
三ツ木 真実.....	86

教 員 名 天 野 大 輔

1. 研究主題

現実の様々な問題に対して、経済学は考え方の指針を与えてくれます。経済学は、その専門的知識を利用してお金を儲けるための手段ではありません。本ゼミを通じて、現状の日本経済に関する諸問題を解決するために、あるいは将来において皆さんの眼前に立ちふさがる個々の課題を克服するために、「経済学的な」考え方や論理的な説明能力がどれだけ有効であり、かつ視野を広げてくれるかを認識してもらうことを研究主題とします。最終的には、4年次に卒業論文を作成することで、それまでに学んだ内容を「形」にすることも、併せて主題とします。

2. 指導要領

以下で指定された、海外でも幅広く使用されている経済学（トピックは経済成長理論）の著名なテキストを輪読します。具体的には、毎回2名程度の、事前に決められた担当者に口頭（日本語）でテキストの内容を発表および解説してもらいます。したがって、ゼミの参加者はもちろんのこと、特に発表担当者の無断欠席は厳禁とし、その場合はゼミの単位の不認定（あるいは除籍）の対象とします。本ゼミでは、卒業までに基礎的な経済理論を修めてもらうことを到達目標とします。

3. 指導テキスト及び参考書

現状では、以下の経済成長理論に関するテキストを使用（履修者で輪読）する予定です。
“Introduction to Economic Growth”, Charles I. Jones and Dietrich Vollrath (著), WW Norton & Co; 3rd International student 版, ISBN: 978-0393920789.
和訳本が存在しますが、訳本は版が古いので発表時は上記のテキストに従って発表してもらいます。

上記のテキストは、図書館で貸出不可の「禁帯出」扱いとし、2階の「教員指定図書コーナー」に配架していると思います。ゼミ希望者は事前にテキストの内容を確認するようにしてください。ただし、開講時までに他の最新かつ有意義なテキストが発刊された場合には、テキストを変更する場合もあります。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

新型コロナ感染状況が改善し、対面での面接が可能になった場合は、応募者の多寡に依存して、個人あるいはグループでの面接あるいは選考会を実施します。応募に必要な書類として、事前（あるいは当日）に下記「5.」の情報を記載した書類を提出してもらいます。

ただし、コロナ禍の現状が改善しない場合は原則、書類選考のみとします。いずれの場合も筆記試験は実施しません。

5. 面接・テスト等の日時・場所

【対面での面接が可能になった場合】：

現状では天野の研究室（1号棟の337）で、4年生のゼミの時間帯（火曜日）での面接を予定しています。その場合、面接時間は各個人（あるいはグループ）につき30～45分を要します。事前（あるいは当日）に提出してもらった下記の書類を利用して面接を実施します。

あるいは、3年生のゼミの時間帯（木曜日）に、315ゼミ室で4年生を交えて選考会をすることも考えています。

【応募書類、および対面での面接が不可能な場合】：

選考書類として、下記の質問①～④に対する「全て」の回答をワード（Microsoft Word）で作成し、そのファイルを e メールに添付して天野（アドレスは amano@res.otaru-uc.ac.jp）宛てに送信すること。

提出期限は 10 月 31 日(日) 18 時（第 1 次選考期間開始の前日）迄とし、期限厳守とする。

質問事項は、以下の通り。①:簡単な自己紹介、②:本ゼミ（経済成長理論ゼミ）の志望動機、③:これまでに受講した主な経済学および数学関連の科目とそれらの授業の感想（ただし、教員に対する評価ではなく、受講したことによる成果や何を学んだか、あるいはどのように勉強したかについて回答すること）、④:③で回答した科目群において、特に興味を持ったトピックとその理由（複数の回答を希望します）。

ゼミ希望者には e メールで事前に面接時間・必要事項などの連絡をする必要があるので、この場合の詳細は、メールや manaba のコース「R4（2022）年度ゼミ選考」の掲示板などで適宜、お知らせします。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

最終的な内定者の多寡に依存して、4 年生のゼミの時間帯（火曜日）での合同ゼミになる場合が十分にありえます。

新型コロナウイルス感染状況の悪化により、記載内容に変更が生じた場合は、manaba のコース「R4（2022）年度ゼミ選考」の掲示板で周知する予定です。現時点では、対面での面接も可能であることを前提に記載しています。

教 員 名 岩澤政宗

1. 研究主題

近年、IT の発達に伴い膨大なデータが蓄積・分析されるようになりました。データから有用な情報を引き出すには、統計学や計量経済学の知識を身につけ、それを応用する能力が必要です。本ゼミでは、統計学、計量経済学、機械学習に関する理解を深め、それらを応用するための能力を身につけることを目指します。

2. 指導要領

テキストの輪読や、データ解析ソフトウェアを用いたプログラミングを学習します。理論と応用のバランスはゼミ生の興味関心に応じて決定します。

2021 年度は、回帰分析やニューラルネットワークという機械学習の分析手法と、python を用いた実装について学習しています。また、アフターコロナの地域経済についてのデータ解析コンペティションに参加し、アンケート調査によるデータの収集と分析をしています。

3. 指導テキスト及び参考書

機械学習に関するテキストを候補として考えています。実際には、ゼミ生の興味や知識に応じて決定します。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望ゼミの申し込み時に、自己紹介、志望理由、ゼミでしたいこと、ゼミ活動にどのように貢献できるのかを A4 サイズ 1 枚にまとめた書類を、下記のメールアドレスに提出してください。書類と面接により選考を行います。

iwasawa.seminar@gmail.com

5. 面接・テスト等の日時・場所

メールで面接の日程を調整します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

統計学、計量経済学を履修していることを要件とします。

ゼミ活動は学生が主体的に運営していくものだと考えています。意欲的に楽しく学習に取り組める方はぜひ応募してください。

教 員 名 江頭進

1. 研究主題

このゼミは基本的には経済思想史の研究をするゼミですが、それと同時に北海道内の様々な問題を探し出し、経済学の知識を用いてその解決方法を探ることも目的としています。そのため、経済学の古典を読むと同時に、北海道をフィールドとして、各地の課題を調査します。いまなお読まれ続ける経済学の古典の中には、現代日本の様々な問題を考える上でのヒントが数多く語られています。古典とフィールドの二つをつなげていくための手法を考えていきます。

2. 指導要領

令和4年度の3年生ゼミでは、木曜日の14時30分～17時までの間、Thorstein Veblen『有閑階級の理論』をまず購読します。この書籍が一通り終わった後、地域通貨のテキストを読みます。

17時～19時までの間は、小樽を中心とした北海道内の調査、学内ディベート、学外との研究発表会等の準備を行います。

3. 指導テキスト及び参考書

ソースティン・ヴェブレン『有閑階級の理論』(講談社)。

栗田健一『コミュニティ経済と地域通貨』(専修大学出版局)

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書に基づいて、11月1日から5日までの間に面接を行います。新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、オンライン、対面のいずれかで面接を行います。

5. 面接・テスト等の日時・場所

10月20日(水)までにmanaba上で、江頭ゼミ面接希望時間調整のURLを掲示します。希望者は、そのリンク先で希望日時を記入してください。また、志望理由書を添付しておくので、DLして記入した後、10月29日(金)17時までに、egashira@res.otaru-uc.ac.jpまで送ってください。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- (1) 江頭ゼミのゼミ生は、全員自動的にゼミ生で運営する特定非営利法人Ega0のメンバーとなります。Ega0の方も、ゼミ生による面接が行われますので、別途掲示を注意しておいてください。
- (2) 江頭ゼミでは、年4回の学内合同ゼミ、年1～3回の他大学との合同ゼミを行います。他大学との合同ゼミの場合、他地域への遠征もあります。
- (3) 江頭ゼミでは、緑丘祭でのあんかけ焼きそばの出展の他、小樽市内の祭りを盛り上げるために何度かの出店を行います。
- (4) その他、北海道内の市町村の出張調査を行う予定です。

教 員 名 小野塚 祐紀

1. 研究主題

労働経済学、教育経済学、応用ミクロ計量経済学

(主に、労働や教育の分野においてミクロデータ（個票データ）を用いた実証分析)

私自身は今まで、男女間賃金格差、労働者能力の雇用者学習、大学での専攻分野とスキルの関係、大学入試方法などについて研究を行っている。

2. 指導要領

3 年生のゼミでは、労働経済学の理論的基盤と実証分析の手法を身につけることを目標とする。そのため、労働経済学のテキストとデータ分析を重視した計量経済学のテキストの輪読を中心に行う予定である。4 年生のゼミでは、各自卒業論文の執筆に取り組んでもらい、研究の進捗発表を中心とする予定である。なお、経済学の知識だけではなく、口頭発表や議論の仕方についても重視する。

3. 指導テキスト及び参考書

以下に挙げるような労働経済学、計量経済学の本から、志望者のレベルや目標に合わせて何冊か選び、ゼミでカバーする予定である。

労働経済学：・大森義明(2008)「労働経済学」日本評論社・川口大司(2017)「労働経済学—理論と実証をつなぐ」有斐閣

計量経済学：・伊藤公一郎(2017)「データ分析の力—因果関係に迫る思考法」光文社・中室牧子、津川友介(2017)『『原因と結果』の経済学—データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社・西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮(2019)「計量経済学」有斐閣・Wooldridge, J. M. (2019), Introductory Econometrics: A Modern Approach, South-Western Pub.

現時点ではゼミでカバーする予定はないが、以下の本は教育経済学がどのようなものか理解するのに役立つだろう。

・中室牧子(2015)『『学力』の経済学』ディスカバー・トゥエンティワン

4. 選考の方法（面接・テスト等）

面接。面接には成績表を持参すること。また、面接の前々日までに、1: 大学入学以後、どのようなことを考え、どのように過ごしてきたのか、2: 将来はどのようなキャリアを考えているのか、3: そのキャリアのために、このゼミでどのような知識やスキルを身につけたいと考えているのか、の3点についてA4で1枚程度にまとめたものを作成し、メールで提出すること。

* 選考ではゼミ志望者が求めているものとゼミで提供できそうなことが合っているかを重視する。今まで何も考えず、何もやってきていなかったとしても、必ずしもそれで不合格にはしない。ただし、今後も何もせずに過ごしたい人を受け入れるつもりはないので、そのような人は他のゼミを志望すること。

5. 面接・テスト等の日時・場所

申込期間中に manaba コース「2022 年度ゼミ選考」にて周知する。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

労働、教育以外の分野で個票データを用いた実証分析を行いたい者も受け入れ可能である。ただし、明らかに他のゼミの方が向いていると思われる場合にはそちらのゼミを薦めることもある。

このゼミは 2021 年度に始まった新しいゼミである。そのため、指導内容、ゼミ運営に関して予定から多少変更となる可能性があるのはご了承ください。

教 員 名 佐野 博之

1. 研究主題

公共経済学。経済政策全般。

当ゼミでは、公共部門の経済活動に関する問題をミクロ経済学の枠組みの中で考え分析していくことを、最終目標とします。公共経済学では、外部性、公共財、所得再分配政策、そしてそれらに関わる国や地方の財政の問題を主に扱います。外部性を学ぶことは、地球環境問題とその解決法の研究につながります。また、新型コロナワクチン接種の普及に関わる社会的問題は、公共財の供給問題として捉えられます。このように、当ゼミでは現在の日本や世界が抱える諸問題を、公共経済学の基本テーマに結びつけて研究していきます。

2. 指導要領

初年度(3年次)の前半は、公共経済学もしくは経済政策全般に関わるトピックをいくつか指定し、小レポートにまとめながら、論理的な文章の書き方を修得するとともに、現実の諸問題を公共経済学の基本テーマに結びつけて研究することで、公共経済学の理解を深めます。その後は、いくつかのグループに分けてグループごとに研究テーマを選んで研究します。2021年度は、2015年に国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に関わるテーマの中から、「フェアトレード」、「教育」、「水・衛生」を取り上げグループごとに研究し、随時プレゼンテーションを行っています。後半には、別のテーマを設定してディベートを行い、グループごとにレポートにまとめます。こうして、現実の問題に関わるテーマを深く掘り下げて研究し、4年次での卒業論文につなげていく予定です。公共経済学に対する理解を深めることはもちろんのこと、説得力のあるプレゼンテーションと積極的なディスカッションの能力を身につけることも目標の一つです。ちなみに、過去に提出された卒論のテーマは、環境問題や教育問題から年金・医療問題、さらにはESG投資やスポーツへの公的な関わりに至るまで様々です。今年度は、ジェンダー問題やコンテンツ産業の推進策などのテーマが挙がっています。

3. 指導テキスト及び参考書

特にテキストは指定しませんが、研究テーマに対応して必要な文献を入手する必要があります。

4. 選考の方法(面接・テスト等)

面接で、当ゼミへの志望理由、どんな経済問題あるいは経済理論に関心を持っているのかについて、聞かせてもらいます。基本的に集団での面接になります。テストは行いません。必ず事前に、志望理由と関心事についてまとめてきて、面接で答えられるようにしてください。

5. 面接・テスト等の日時・場所

日時：追って、manabaコース「2022年度ゼミ選考」の掲示板でお知らせします。

場所：3号館3階312号室(ゼミ室)、あるいは、Zoom

問い合わせは、sano@res.otaru-uc.ac.jpまで。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

現在(2021年度)の3年ゼミ生は10名、4年ゼミ生は12名です。佐野ゼミは中断期間を除いて2000年度から18期続いております。これまでの1学年のゼミ生の数は10～13名程度でした。2022年度もこの範囲の人数を予定しています。現在の社会に対して何らかの問題意識を持ち、積極的な姿勢でゼミに参加するような学生を歓迎します。

1. 研究主題

国際経済の現状をふまえて理論と政策について学びます。

2. 指導要領

(1) レポーター方式でのテキストの輪読と議論により、国際経済学と日本や世界の経済の現状について理解を深めます。

(2) ビブリオバトルやゼミ内ディベートにより、プレゼン能力と短い時間での議論の深め方、チームワーク力を培います。

3. 指導テキスト及び参考書

石川城太・棕寛・菊池徹著『国際経済学をつかむ【第2版】』有斐閣、2013年

棕寛著『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020年 など

4. 選考の方法（面接・テスト等）

事前に申請書を提出して頂き、後日面接を行います。

5. 面接・テスト等の日時・場所

(1) 申請書：申請書は柴山のゼミのホームページ
(<http://www.otaru-uc.ac.jp/~chisato/seminar.home.html>)よりダウンロードした申請書に記入したものを柴山あてに(chisato@res.otaru-uc.ac.jp)「柴山ゼミ応募」というタイトルをつけて添付ファイルで11月7日(日)までに送付して下さい。

(2) 面接：11月9日(火)および10日(水)の14時半から17時40分までの間に行います。詳細は、manabaコース「2022年度ゼミ選考」掲示板で告知します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

(1) ゼミを5回以上休んだ場合は退ゼミして頂きます。ゼミを休むときは、柴山に連絡して下さい。やむを得ずレポーターに当たっている回を休む場合は、可能な限り他の学生にレポーターを交代するとともに、柴山に連絡して下さい。

(2) 長期留学によりゼミを休むことに関しては、課題提出等を条件に半期以内であれば相談に応じます。ただし、半期を超えた場合は、退ゼミして頂きます。

(3) 遅刻は厳禁です。特別な事情がない限り、遅れても10分以内にして下さい。

(4) 4年生と合同ゼミです。

(5) ゼミに積極的に貢献して頂ける方を歓迎します。

7. オープンゼミの日時・場所（予定） ※現在非開講のゼミは記載不要

オープンゼミは、9月28日(火)、10月5日(火)、12日(火)、19日(火)に行います。詳細はmanabaコース「2022年度ゼミ選考」掲示板で告知します。

1. 研究主題

テーマ： QuantEcon を使った経済データ分析

QuantEcon [<https://quantecon.org/>] が提供するオープンソースのソフトとそのレクチャーシリーズを使って経済モデルを作成し、シミュレーションやデータ分析を行う。さらに、それらシンプルな教科書モデルを適切に拡張し、現実の経済データを分析する。

2. 指導要領

本学の「グローバル大学」精神に基づき、本ゼミでは英語で経済学を学びます。例年は英語文献の輪読を行っていますが、来年度は新しい試みとして、経済データ分析用ソフトウェア QuantEcon を使って経済モデルを作成し、データシミュレーションを遂行、結果の分析を行います。したがって、ゼミ参加者は毎回ノートパソコンをゼミに持ってくる必要があります。レクチャーシリーズは英語で書かれているため、英語文書を読むことになりますが、ゼミでの報告・議論は、内容の正確な理解のために日本語で行います。また、4年次にはそれを踏まえて卒業論文を作成してもらいます。

毎回、事前に参加者の数人にレクチャーシリーズの一部を割り当てるので、担当者は内容を理解したうえで、レジュメとサンプルコードを作成し、発表することが求められます。また、報告者以外も一緒にあって課題を解いていきます。ゼミ参加者に対しては、少しでも理解が曖昧な部分があれば、ゼミにおいて積極的に質問し議論を通じて内容を理解していくことを求めます。

3. 指導テキスト及び参考書

ソフトウェアとそのレクチャーシリーズ（共にオープンソース）は以下のサイト[1]にあります。QuantEcon ではプログラミング言語 Python, Julia によってプログラミングを行います。Python に関する参考書は色々ありますが、例えば[2]が挙げられます。Julia に関しては[3]を参照してください。また、経済シミュレーション、データ分析に関する日本語の参考書としては[4]があります（いずれも用意する必要はありません）。

[1] QuantEcon [<https://quantecon.org/>]

[2] John V. Guttag (原著), 久保 幹雄 (翻訳), 「Python 言語によるプログラミング イントロダクション」, 2017, 近代科学社; 第2版。

[3] 進藤 裕之, 佐藤 建太, 「1 から始める Julia プログラミング」2020 年, コロナ社

[4] 原 泰史, 「Python による経済・経営分析のためのデータサイエンス」, 2021 年, 東京図書

4. 選考の方法（面接・テスト等）

オンライン面接により選考します。参加志望者は10月29日までに以下のファイルを添付し、メールで志望書を提出して下さい。メールの件名は必ず、**2022 年度白田ゼミ参加志望**としてください。

[1] 自己紹介（必ず連絡の取れるメールアドレスも書くこと）、ゼミ志望理由、将来の進路希望などをまとめたレポート（WORD または PDF, A4 で一枚, 2,000 字程度）。

[2] 1 年から 2 年前期までの成績表のコピー(PDF)。重視するのは経済学科の科目と数学の科目です。

5. 面接・テスト等の日時・場所

面接場所は zoom を予定しています。日時は志望書提出者に個別に連絡します。内容に変更が生じた場合は、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」の掲示板で周知します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

数学，プログラミング，論理的な考え方を使うことが好きで，ゼミで積極的に議論に参加し，発言してくれる学生を希望します。また，本ゼミは 3, 4 年合同で行うことを予定しています（本年度は 3 年のみ）。また，大学院に進学希望の学生には，個別に相談にのることもできます。最後に，勉学以外のゼミに関する事項は基本的に学生の自主性を尊重します。正規の活動以外は，すべて学生からの提案次第ですので，主体性をもってゼミを運営してください。

教 員 名 土居 直史

1. 研究主題

経済データ分析

（僕の専門分野は「実証産業組織論」です。データをもとに（「実証」）、それぞれの産業で生産者や消費者がどのように行動していて、どのような政策が有効なのかを分析する（「産業組織論」）ような分野です。）

2. 指導要領

おおまかには以下のような流れを予定しています。前期は3年・4年合同ゼミの予定です。

- ・3年次：前期に教科書をもとに勉強したうえで、後期に実際にデータ分析をやってみる
- ・4年次：各自の卒業論文を書く

※3年次に青山学院大学・田中ゼミとの交流も計画しています。

3. 指導テキスト及び参考書

ゼミ参加者の関心に応じて決めます。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

- ・面接
- ・レポート：自己PR・データ分析をしてみたいテーマ
 - * A4で1枚
 - * 面接前日までに「doi.naoshi.1983@gmail.com」へメールで送ってください。

5. 面接・テスト等の日時・場所

僕のゼミへの応募を決めてくれた人は、以下のQRコードかURLから面接日時の調整をお願いします。



<https://forms.gle/J5yueEwoMEKKCk5RA>

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- ・経済学科以外の人のお誘いも歓迎です！（現3年生の内訳：経済学科9人・商学科1人）
- ・質問などがあれば、遠慮なく「doi.naoshi.1983@gmail.com」へメールください。
- ・記載内容に変更があったときは、manabaコース「2022年度ゼミ選考」の掲示板でお知らせします。

教 員 名 中村健一

1. 研究主題

私たちの行動（働くことや学ぶことなど）は、期せずして私たちが相互に関わりあい、社会的関係を形成するという役割を担っています。そしてこのような社会的関係の多くは経済的な側面を持っており、その分析には経済学が有用です。経済学によって我々の形成する社会について学び、同時に、ふだん語られない経済学の背景となる知識についても注目しながら、様々なことについて考えてみましょう。

2. 指導要領

1 年目（3 年生）に基礎的な経済学の能力を身につけて、2 年目（4 年生）でその応用となるような主題を選んで卒論の作成に取り組んでもらう予定です。参加者の関心に応じて、テキストややり方が変わっていくのが当ゼミの特徴です。

3. 指導テキスト及び参考書

今までさまざまなテキストを取り上げてきました。今年度はクルーグマンによる経済学の入門用テキスト（「ミクロ経済学 第2版」「マクロ経済学 第2版」東洋経済新報社）を使用していますが、来年度用のものはまだ決まっていません。毎年、参加者と相談して決めています。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書の選考によって行います。具体的には下記「5. 面接・テストなどの日時・場所」を参照して下さい。

また選考についての情報を、manaba の「2022 年度ゼミ選考」の中村健一ゼミの項目として掲示しますので、必ず参照して下さい。

5. 面接・テスト等の日時・場所

11 月 1 日（月）、午前 12 時を締切として、「志望理由書と成績表のコピー」を「kenakamu@res.otaru-uc.ac.jp」宛にメールで提出して下さい。

志望理由書は各自が必用にして十分と考える内容・字数で自由に記述して下さい。

成績表については学務情報システムの画像を保存したものを添付して下さい。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

履修希望者へのメッセージ：端的に言うと私の講義（労働経済学など）に関心を持てたような人に向いていると思います（講義を受講した人しか応募できないという意味ではありません）。

言い換えると、しっかりした経済学の体系的知識を中心にして、その背景となる歴史や社会思想、科学史と言ったことにも関心を持ちうる人ですね。実際、私のゼミテンの多くは受講生出身で、みんな楽しくやっているようです。

後期開講の「労働経済学」の講義は、ゼミ選択の参考になるかも知れません。

ゼミ募集に関する質問がありましたら、何なりと「kenakamu@res.otaru-uc.ac.jp」までお寄せ下さい。

1. 研究主題

歴史学（西洋史）、特にヨーロッパの日常生活史。日常的な文化・生活のあり方を歴史的に考察し、個人をとりまく社会秩序の枠組と変化を考えます。政治的事件の歴史（＝事件史、「偉い人」たちの歴史）ではなく、民衆の生活を扱う歴史学で、家族史や人口史、感情の歴史、民衆文化、飲食・病気・犯罪の社会史やグローバルヒストリー、環境史や災害史、開発や資源管理の歴史など様々な領域が考えられます。その中で毎年テーマを決めて読む文献を選びます。今年度は、良知力『青きドナウの乱痴気：ウィーン 1848 年』（平凡社）、阿部謹也『ハーメルンの笛吹き男：伝説とその世界』（平凡社）などを読んでいます。来年度のテーマはまだ未定です。

2. 指導要領

テーマに関する古典的な学術文献を輪読し、精読します。専門書に丁寧に取り組み、背景・用語などを調べ、叙述構成を分析し、論旨の展開を把握していきます。参加者は、毎週予習として事前に参考文献も参照しながら文献を読んでおき、輪番で文献の論旨・内容・論点を紹介・整理するレジュメを作成してそれに基づいてゼミの場で報告し、レジュメ報告者以外の人は毎週コメント・レポートを作成・提出し、ゼミの場でそれに基づき意見を発表します。それに加えて、4 年次には、各自が西洋史に関するテーマを選んで文献調査を行い、卒業論文を作成し、定期的にゼミで報告した後に提出します。

3. 指導テキスト及び参考書

未定。例えば、次のような本から数冊が選ばれます。

- ・ 清水広一郎『中世イタリア商人の世界』（平凡社）
- ・ 阿部謹也『西洋中世の男と女：聖性の呪縛の中で』（筑摩書房）
- ・ 川北稔『洒落者たちのイギリス史：騎士の国から紳士の国へ』（平凡社）
- ・ 近藤和彦『民のモラル：近世イギリスと文化と社会』（山川出版）
- ・ 千葉治男『義賊マンドラン：伝説と近世フランス社会』（平凡社）
- ・ 宮崎揚弘『災害都市トゥルーズ：17 世紀フランスの名望家政治』（岩波書店）
- ・ ピエロ・ベヴィラックワ『ヴェネツィアと水：環境と人間の歴史』（岩波書店）
- ・ L. ダヴィドフ・C. ホール『家族の命運：イングランド中産階級の男と女』（名古屋大学出版会）
- ・ 浜忠雄『カリブからの問い：ハイチ革命と近代世界』（岩波書店）
- ・ 見市雅俊『コレラの世界史』（晶文社）
- ・ 喜安郎『近代フランスの〈個と共同性〉』（平凡社）
- ・ 同『夢と反乱のフォブール：1848 年のパリの民衆運動』（山川出版）
- ・ 増谷英樹『ピラの中の革命：ウィーン 1848 年』（東京大学出版会）

以上は暫定的な候補です。付属図書館の教員指定図書コーナーに置いてありますので、関心がある人・応募を考える人・応募したい人は、ゼミの方向性を知ってミスマッチを避けるため、同コーナーで実際に手に取り内容を確認した上で応募するかどうかを検討して下さい。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

提出書類の内容と面談などにより選考。次の 2 つの書類を電子メール（Word 形式で作成したファイルを添付）で提出して下さい（締め切り：10 月 27 日）。アドレス：shirai アトマーク res.otaru-uc.ac.jp

1) 志望レポート：

名前・学番・所属学科・所属部活・出身高校・メールアドレス・ゼミ説明会に来た日を記した上で、

- ① 本学入学後に読んだ本・観た映画・行った美術館、読んでいる新聞・雑誌、

- ② 履修した基礎ゼミと歴史学関係の科目、2 年前期までの取得単位総数と英語及び第 2 外国語の取得単位数を書いた上で、
 - ③ 基礎ゼミではどのようなことを勉強したか、
 - ④ 本学入学後どのような勉強に頑張ってきたか、
 - ⑤ 図書館で内容確認した上記のテキスト候補本（3 冊選ぶ）が扱うテーマを簡単に説明し、
 - ⑥ このゼミでどのような勉強をしたいのか、
 - ⑦ 卒業論文で扱ってみたいテーマ、
- を合計 1300 字程度（それ以上でもよい）で説明する。

2) 文献指定箇所のレジュメ：ゼミ説明会等で応募者に個別に文献を指定する。

5. 面接・テスト等の日時・場所

- ・面接：11 月 4 日（木）頃。詳しくは追って連絡。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

・日常的に読書習慣があり、高校で世界史を学んで西洋史に強い関心をもっていることが望まれる。西洋史が好きで真面目に勉強したい人はあまり恐れずにご応募下さい。読書好きの人は特に歓迎します。また、1 年次に基礎ゼミで文献の輪読・レジュメ作成を経験した人は優先的に対応します。ヨーロッパの歴史と文化に関心がありバイロイトやウィーン、マルセイユなどに交換留学したい人も歓迎します。

・所属学科を問わず 応募可です。現在の 4 年生は商・経済・企業法・社会情報、3 年生は商・経済に所属しています。

・ゼミの内容上学術文献をじっくり読み解いていくことが基本作業となりますので、毎週の事前の準備作業（文献の読解、参考文献の参照、レジュメやコメント・レポートの作成など）を面倒がらず怠らず、ゼミでの報告・発表・発言を嫌がらないことが求められます。

・ゼミの性質上毎回出席することが求められ、それが成績評価の前提となります。部活・バイトなどを理由にした欠席・早退は認められません。

・本ゼミについて質問や相談等がある人は上記アドレスまでご連絡下さい。

（第 1 次募集）

・第 1 次募集では、日常的に読書習慣があり、西洋史に強い関心をもっていること以外に、特に応募資格はもうけません。

（第 2 次募集を行う場合）

・第 2 次募集を行う場合には掲示を出します。応募資格などは未定。

（第 3 次募集を行う場合）

・第 2 次募集終了後に追加募集を行う場合、「他に入れるゼミがない」という理由で応募するのは、本ゼミの性格・内容上適当ではなく歓迎しません。応募の資格・方法・期限について掲示を出しますが、これまで外国語の単位を落としていないこと、2 年前期までの取得単位総数が 45 単位以上、などが応募資格に入ります。

7. その他

・オープンゼミについては、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」の掲示板で告知します。特別な催しを行う予定はありません。

・ゼミ説明会：ミスマッチを避けるため、応募したい人や応募を検討している人、関心がある人は、応募前にゼミ説明会に来て下さい。レジュメ等の見本を示し、応募したい人にはレジュメ作成箇所を指定します。日程は manaba 上で告知します。Zoom でオンライン開催となる可能性があります。

教 員 名 廣瀬 健一

1. 研究主題

マクロ経済学、金融ファイナンス論、国際マクロ経済学・国際金融論

(特に、現在と将来というような異時点間の意思決定を重視した動学分析を積極的に取り扱います)

2. 指導要領

3年次：テキストの輪読などを通じて、本ゼミの研究主題に関する基礎的な知識を身につけます

4年次：卒業論文の作成に向けて、各自の個人研究の発表を行います

(卒業論文では本ゼミの研究主題と無関係なテーマを選択しても結構です)

3. 指導テキスト及び参考書

ゼミ生の希望分野・レベル等を考慮しながら、相談の上で決定します

4. 選考の方法（面接・テスト等）

選考方法：面接＋経済学関連科目の成績・履修状況（特に応募条件①・②を重視）も考慮

応募条件：①経済学科科目「ミクロ経済学」を履修済みであり、かつ

②経済学科科目「マクロ経済学」を現在履修中であること

※もし 応募条件①・②を満たしていない場合 は、未履修科目に関して3年ゼミ開始時まで

に
履修済みである学生と同等レベルの知識を自力で習得しておくことが求められますので
必ず申込前にメールで相談して下さい

5. 面接・テスト等の日時・場所

面接（1人当たり10分程度の個別面接を予定・オンラインによる実施の可能性も有）の日は
申込期間中に manaba コース「2022年度 ゼミ選考」のスレッドにてお知らせいたします

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

履修希望者は下記要領の応募申込メールを 10月27日（水）までに 送信して下さい

宛先：hirose@res.otaru-uc.ac.jp

件名（subject）：seminar2022（半角英数字をお願いします）

本文に記載する必須事項：

所属学科、学年、学籍番号、氏名、メールアドレス（PC・携帯のどちらでも結構です）、
志望理由、現在履修中の経済学関連科目

（その他、自己紹介・アピール等があれば、自由に書いて頂いても結構です）

添付ファイル：これまでに取得した単位の成績がわかる資料

（Campas Square のスクリーンショット等）を添付して下さい

※事前に相談があれば、他大学大学院（経済学研究科）への進学希望者を対象とした
中級～上級レベルのミクロ経済学&マクロ経済学を取り扱うことも可能ですから
その場合は予めメールで相談して下さい

教 員 名 松 家 仁

1. 研究主題

「自ら目標を設定し、課題を見つけ、資料を集め、研究する」

これができるようになることを主眼に置き、そのための手段として経済史に関するテーマで学生が卒業論文を書けるようになることを目標としています。卒業論文の題材については、学生の希望を優先してきており、これまでの卒業論文の課題としては、経済学科にある歴史ゼミとして、地方や中央の銀行・金融史や企業史、産業史など、自分の職業選択に関連するテーマを中心に比較的自由に認められています。

2. 指導要領

自分でテーマを設定し、ゼミで発表を行います。その中で単に知識の獲得のみならず、また情報を発信する手段、方法、能力などを身に着けることを期待しています。一昨年まで、前半は読書会、後半は発表・報告を中心にゼミナールは運営されてきましたが、運営方法についても学生の希望を優先する予定です。ゼミは対面授業が復活すれば、個人ないしはグループでの発表としたいので、1 時間程度の事前学習・発表準備が必要となります。

卒業論文の評価については、卒業論文としての型式が守られているかに加えて、十分な独自性のある研究内容を含んでいるかどうかを基準としています。

3. 指導テキスト及び参考書

読書会で輪読する書籍などゼミの進行についてはすべて、学生と相談して決めます。教科書・参考書は指定しません。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

今年も全く予定が立たないので、臨機応変にみなさまの希望に対応します。9 月 27 日（月）から、オープンゼミ参加希望者からのメールを受け付けます。以下のメールアドレスに氏名と学番を書いたメールを送ってください。オープンゼミ期間中に開催されるゼミの zoom アドレスを返信します。

jin.matsuka.ezweb@gmail.com

選考も 20 分程度の zoom 面接で行います。10 月 21 日（木）～27 日（水）までの間に面接希望のメールを上記のアドレスに送ってください。面接には特別な準備は必要ありません。自己紹介、そして自分がいままで関心を持って来たこと（サークル・趣味など）などについて、zoom で簡単に説明できるように心の準備をしておいていただければ結構です。

選考結果は 11 月 12 日（金）までにメールで連絡します。希望者数が予定数を大幅に上回ったときに限って、例外的に選抜を行います。

5. 面接・テスト等の日時・場所

zoom 面接の希望時間は、以下の候補から選んで下さい。

11 月 2 日（火）、4 日（木）、9 日（火）、そして 11 日（木）の午後 2 時半から 5 時までの間から複数の zoom 面接開始希望時間を選んでお知らせください。こちらで調整して面接時間を返信します。上記の時間で都合が悪い学生は、その旨お知らせください。臨機応変に対応します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

特に求めているのは読書が好きな人です。

なおコロナ禍の関係で、選考方法に変更が生じる可能性があります。その場合、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」の掲示板で周知しますので、manaba をまめにチェックしてください。

教 員 名 水 島 淳 恵

1. 研究主題

人工知能と経済学

人工知能の発展が著しい昨今ですが、このゼミでは人工知能の光と影を分析しながら人工知能が私たちの暮らしに与える影響を経済学の視点から考察してゆきます。

2. 指導要領

プレゼンを基本とします。ゼミ生は毎ゼミごとに何らかの役割が課されます。

3. 指導テキスト及び参考書

“The future of employment: How susceptible are jobs to computerisation?”

Carl Benedikt Frey and Michael A. Osborne (2017), *Technological Forecasting & Social Change*, p254-280

4. 選考の方法（面接・テスト等）

書類選考と面接

5. 面接・テスト等の日時・場所

選好方法：（手順）

ゼミ希望者は10月27日(水)12時（昼）までに

(a) 将来の展望を記載した自己紹介文

（自己紹介文には連絡の取れるメールアドレスを記載ください）

(b) ゼミで行いたい事

(c) 現在関心を持っていること

について それぞれ、A4 1枚程度

(d) 成績表（現在履修科目を(a)に書くこと）

を mizushima@res.otaru-uc.ac.jp 宛てに送付してください。

（注意）

* ワードのままだとファイルが開かないケースが過去にいくつかありましたので、可能ならばPDFにして送付してください。

* PDFはwindowsの場合は「名前をつけて保存」でPDFを選択してください。macの場合は「印刷」でPDFに出力で変換可能です。

* 件名に「学籍番号・氏名（ゼミ希望）」としてください。そうでない場合は受信できない可能性があります。

結果はmanabaにて通知します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

ゼミを欠席した場合は、その都度レポートを提出して戴きます。

3回以上欠席した場合、単位取得は難しいと考えてください。

1. 研究主題

「経済・ビジネス分析のためのデータサイエンス（統計・機械学習）」

Deep Learning を始め Big Data 解析と人工知能の分野で最先端な様々な Machine Learning の手法を習得し、企業や個人の経済活動に関する実証分析を研究主題とする。

近年 Neural Network をベースに Deep Learning の手法が開発され、データ分析や人工知能の分野で他の伝統的な統計学の手法と比べて圧倒的な勢いで発展し、独占的な地位を占めそうとしている。同時に分析対象の特性に合わせて Random Forest や Boosting などの Machine Learning の方法も開発されている。本ゼミでこれらの方法の原理を理解し、Python によるプログラミングの技能を身につけ、実際のデータを用いて経済活動やビジネス活動に関する知見を見出すことにより、時代の最先端を覗く。

2. 指導要領

ゼミ生の準備知識のレベルを考慮して以下の要領で指導を行う。

3 年次前半においては、Deep Learning などの Machine Learning の手法に関するテキストを輪読し、プログラミング言語 Python による実装方法を習う。

3 年次後半では、ゼミ生各自関心を持つテーマを見つけ、プロジェクトグループを立ち上げ、データを収集し、実証分析を行う。

4 年次においては、後輩の 3 年生の活動に参加しながら、研究成果をまとめ卒論を作成して行く。卒論の作成に当っては個別指導を行う。

3. 指導テキスト及び参考書

ゼミ活動の中で必要に応じて指定する。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

統計学や数理統計学など統計関連科目一つとプログラミングの内容を含む情報処理関連科目を一つ以上が履修済みか履修中であることを条件とする。面接で選考を行う。面接の時に当ゼミを志望する理由、ゼミの中で取り組んでいきたいこと、ゼミに対する期待、プログラミングに関する知識及び自分の趣味、得意なことなどを記入した自己紹介文を事前に作成して必ず提出してください。

5. 面接・テスト等の日時・場所

面接希望者は事前に qliu@res.otaru-uc.ac.jp まで連絡し自己紹介文を送ってください。11 月 1 日（月曜日）から順次面接を行います。面接時間は個別にメールで連絡します。受け入れ予定人数は 10 人以下とする。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

自ら積極的に自己啓発して目標を持ってゼミで能動的に勉強していくことのできる希望者が大歓迎。ゼミの活動の一環として国際交流を積極的に行っていく。

教 員 名 石 井 孝 和

1. 研究主題

財務会計の理論および制度に関する論点の研究

2. 指導要領

近年、会計基準の国際的な統合が進む中で、我が国の会計基準も国際的な会計基準との差を縮めるように会計基準の新設や改正が毎年のように行われている。しかし、現行の会計制度の妥当性や有用性に関しては賛否様々な議論が交わされており、理論的・実証的な検証が続いている。本ゼミでは、3 年次において、基本的な財務会計のテキストの輪読を通じて現行の会計制度について基本的な知識を習得するとともに、テーマごとの論点についてゼミ内で討論することによってさらに理解を深める。4 年次は、各自の興味をもとに策定されたテーマに従って卒業論文の完成に向けた作成指導を行う。

3. 指導テキスト及び参考書

ゼミ開講前までに指示する（できるだけ最新の財務会計に関するテキストを使用する予定である）

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書および面接により選考を行う。志望理由書は、①学生番号、②氏名、③志望動機を記載した word または pdf 形式のファイルを石井宛のメール（ishii@res.otaru-uc.ac.jp）に添付して 10 月 29 日（金）までに提出してください（様式および字数は自由）。

5. 面接・テスト等の日時・場所

面接は選考期間内に Zoom により実施予定。詳細な日時等については後日別途連絡する。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

本ゼミは今年度が初めての募集となります（したがってオープンゼミはありません）。来年 4 月からの 3 年ゼミ生は（もし応募があれば）本ゼミの 1 期生となりますので、皆さんとともに実りあるゼミを一から作り上げていくことができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

1. 研究主題

財務分析・企業価値評価（とくに「事業の定性分析」と「会計の理論・実証」を重視する企業評価）

2. 指導要領

財務会計の知識をもって企業の良し悪しを見分けることができれば、素晴らしいです。ただ、そういう企業評価のために、ROA・ROE等の利益率や自己資本比率といった財務分析上の指標を正確に理解したり計算することは、実はあまり簡単ではありません。どの数値を「利益」や「資本」とみればよいのか自明ではないからです。また関連して、企業価値というものを有意義なかたちで理解・計算することは、機械的な財務分析の作業よりもはるかに難題です。価値はなんとなくの直感で語られる場合があることに加え、それこそ個人個人の価値観によっても異なる数値になり得るからです。

しかし、というより、だからこそ、経営学・商学の分野でも言及される企業価値（計算）を含めた、会計数値にもとづく企業評価には、大学でじっくりと時間をかけて学ぶ意味があります。みなさん自身の深い差別化につなげやすいからです。どちらかといえばとっつきやすい経営学・商学の領域と比較して、会計学・財務論の領域や財務指標の使い方に専門的に通じている人材は、民間／行政という分野の違いを問わず、需要のわりに希少であると聞きます。

このゼミではさまざまな財務指標について、それらを構成する要素の次元から体系的に学び、学術（的証拠）に裏打ちされた分析のセンスを修得することが目標とされます。財務分析・企業価値評価の厳格かつ柔軟な実践を予定しながら（簿記・）会計を学ぶことをとおして、資格試験向けまたは機械的な経理・指標計算向けの勉強とは別の次元に進んでみましょう。

ちなみに、上記のような目標に向けた取組みで多少とも個性的と思うのは、定量的な財務分析・企業価値評価を行うとき、企業（の事業）がもつ定性的な特徴についての（経営学・商学で学ぶはずの）分析も、かなりの程度まで重視することです。それが、企業評価のあり方をユニークなかたちで向上させてくれます。

なお、以上のような専門的な学びが重視される一方、その背景では一貫して、丁寧で実践的なロジック（こうだからこうなる、といった推論規則）を適切・有意義に使いこなす能力の向上が最も強く意識されます。どれだけよい材料や道具（情報や知識）を揃えても、それらを使いきる腕（ロジック）がなければ能力の幅・深さ・寿命は拡大しないからです。ロジックの向上には、それを意識して丁寧に読み・聞き・考え・話し・書く、という地道な鍛錬が決め手になります。それらの基礎能力が最重視される所以です。

3. 指導テキスト及び参考書

履修者のみなさんの意向等をふまえながら決めます。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

【レポートの提出】と【教員との面接】をお願いします。

レポートではまず、上記の研究主題・指導要領に関連する範囲で、①これまで学んだこと、②これから学びたいことをまとめ、③商大で簿記・会計を学ぶ意義はなにかについて論じてみてください。全体の分量はA4版で2枚程度までを目安とします。それ以外の形式はとくに定めませんが、文字数よりも内容・読みやすさを意識しましょう。

5. 面接・テスト等の日時・場所

レポートは11月1日（月）23時59分までに提出してください。提出先は教員宛てのメール・アドレス（ishikawa@res.otaru-uc.ac.jp）を予定しています。なお、manaba等で変更の告知がなければ、ここでお伝えしている予定のとおりをお願いします（以下同じ）。

面接は11月2日（火）夕方以降の都合のあう日時に、対面またはZoomミーティングで行わせていただく予定です。具体的な時間帯や方法は、レポート提出時のメールに返信するかたちで個別に調整していき

ます。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

「ゼミ紹介白書」を9月下旬から10月上旬にかけて manaba に掲載する予定です。また、オープンゼミについての情報も manaba に掲載します。よろしければご覧ください。

履修を考えていただける場合、私から学生さんに期待するのは、その時点での簿記・会計の能力よりも履修前後で自分を高めようとする姿勢です。研究主題が多少とも高度である以上、たぶんハード・ワークが必要になります（授業外での準備（予習）には努力が必要で、ゼミが「延長戦」に突入することもめずらしくないかも）。そのかわり、みなさんの苦勞を成就させて才能を引き出すことについては教員が責任を負いますので、ゼミ生は少なくとも前向きでいてほしいというのが私からのお願いです。インゼミや学外の学習イベント、また打ち上げや合宿等にも積極的に参加していただきながら、いっしょにたのしめる日がくることを願っています。

教 員 名 伊 藤 一

1. 研究主題

商業・流通研究

2. 指導要領

関連する書籍の輪読

3. 指導テキスト及び参考書

適宜、資料等を提示する。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

面接

5. 面接・テスト等の日時・場所

追って manaba（や学内）に掲示する。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

教 員 名 猪口純路（いのぐちじゅんじ）

1. 研究主題- マーケティングの基礎理論修得と複数のプロジェクトを通じた実践-

アイドルのオーディション企画番組、Youtube やインスタでの広告、次々に登場する新商品の開発、同じ商品なのにドラッグストアとコンビニで異なる価格、どれも身近な事例ですが、その背後にはマーケティング論が存在しています。猪口ゼミでは、マーケティングに関する基礎理論を学び、その知識を ゲストハウス運営 および 複数のプロジェクト において活用することで、現実の問題解決にチャレンジ します。さらに、その 現場に根差した問題意識 を基に、卒業論文では理論的な研究 にチャレンジします。

【参考：これまでの主な共同プロジェクト先】スターバックス・コーヒー・ジャパン、味の素、ホクレン、KOKUYO

2. 指導要領-テキスト輪読や卒業研究と並行してプロジェクトを実施-

詳細はゼミ生の希望を最大限取り入れられるよう相談して決定しますが、凡そ下記の通りです。

3 年 前期 テキスト輪読を通じた基礎理論とマーケティング・リサーチに関する基礎知識の修得

* ゲストハウス「順風満帆」運営（新サービス開発、プロモーション、組織運営等、実質的な経営）

3 年 後期 企業等との共同プロジェクトの実施/学術論文輪読/その他

* プロジェクト内容は受講者と相談の上で決定するが、企業の新製品開発案、マーケティング戦略案、地域の問題解決案の提案などが有力候補

* 学術論文はゲストハウス経営や企業とのプロジェクトに関連したものを随時チョイス予定

* 「その他」は状況に応じて、学生と相談の上で前期に不足を感じた領域について、みんなで学びます

4 年 前期 企業等の調査・研究およびそれに基づく卒業論文テーマの策定

* ゲストハウス運営を継続しつつ、そこから得られた問題意識をテーマとすることを推奨

4 年 後期 卒業論文作成の指導

* ゲストハウス、プロジェクト、インタビュー、アンケート調査等、オリジナル・データ収集が条件

3. 指導テキスト及び参考書

高嶋克義・桑原秀史（2008）『現代マーケティング論』有斐閣アルマ

* マーケティング・リサーチに関するテキストも予定。

* その他、プロジェクトに応じて、歴史、文化、マンガ等々、多読が必要となると思っておくこと。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

書類および面接による選考を行います。

10 月 29 日（金）24：00 まで に、inojun-u@res.otaru-uc.ac.jp へ『ゼミを志望』というタイトルのメール に、以下に関する PDF ファイルを添付 してください。様式は自由ですが、読み手に対する配慮や工夫、論理の明快さを評価 します。

1）自己紹介（様式自由、字数、図表、写真等、制限なし）

2）志望理由（様式自由、字数、図表、写真等、制限なし）

3）「商大生が小樽で運営するゲストハウスだからできるサービスとその意義」について A4 用紙 1 枚～2 枚（様式自由、ただし図表、写真等込み）にまとめた書類

5. 面接・テスト等の日時・場所

11 月 1 日（月）9:00 ～7 日（日）19:00 の間に面接（状況に応じて ZOOM 利用）を行います。日程調整は改めて行いますが、なるべく予定を開けておいてください。応募人数によっては、集団面接とします。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

勉強、研究、実践、遊び、どれも忙しいゼミになると思います。学生が リアルなビジネス経験 を積める、理論と現場を自分たちで往復できる チャンスのあるゼミはそう多くありません。良く学び、良く遊ぶ、仲間と共に自身をトレーニングしたい、成長意欲の高い方々を待っています！！

1. 研究主題

管理会計（原価計算およびコストマネジメントを含む）が研究の対象となります。ケース、雑誌・新聞記事、インターネットのようなさまざまな媒体から獲得できる資料も使用しながら、企業経営において管理会計がどのような働きをしているのかについて学んでいきます。なお、研究対象は企業組織が基本となりますが、役所や病院のような非営利組織、アルバイト先の職場、クラブ・ゼミ、家族なども「組織」の1つです。本ゼミでは、企業組織だけでなく自らの身近な組織についても、管理会計の視点から考えていくことを主題としています。

2. 指導要領

初年度においては、管理会計に関する基本知識を身につけるため、テキストを輪読します。輪読の際には、事前に報告者を決めて発表してもらいます。発表を通じて、プレゼンテーションの方法やレポートの書き方、あるいは、議論の仕方などを学びます。第2年度からは、各自の研究テーマについて報告してもらいます。研究報告・討論を順次積み重ね、コミュニケーション能力および問題発見・問題解決能力を高めながら、卒業論文を作成していきます。

3. 指導テキスト及び参考書

テキスト・参考書については開講時に指示します。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書と面接によって選考を行います。A4 用紙に、①学籍番号、②氏名、③所属学科、④メールアドレス（PC・携帯）、⑤志望動機、⑥その他（趣味、特技、ゼミでやってみたいこと、最近不思議に思っていること等）を記入の上、写真を貼付して（デジタル可）、11月2日（火）までに乙政研究室（1号館422号室）前メールボックスに提出してください。様式・枚数は自由です。

5. 面接・テスト等の日時・場所

11月4日（木）14時半より面接を行う予定です（詳細は後日掲示）。志望理由書をもとに、希望者各位に自己PRをしてもらい、質疑応答を行います。面接会場は、乙政ゼミ室（3号館419号室）です。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

知的好奇心あるいは知的功名心旺盛な方を募集します。ゼミナールは、特段の事情がない限り、毎回出席することを求めますが、ゼミナール活動を通じて毎回新たな発見ができるよう努めていきたいと思えます。

1. 研究主題

SDGs、ESG、地域活性化、少子高齢化、人口減少、環境問題、ワークライフバランス、ジェンダー、企業不祥事など現代社会において関心の高まっている「企業と社会」をめぐる様々な課題に対し、企業経営（経営学、特に CSR：企業の社会的責任と経営戦略）の観点からどのように対応すべきかについて、具体的・理論的・実証的に研究する。

2. 指導要領

3 年次 前期（7 月まで）：文献研究、グループ研究発表を通じた基本的な知識の習得。

下記インゼミに向けてのグループ研究課題の設定への助言。

研究を進めていく上で必要な財務分析、統計解析手法の習得。

後期（8 月以降）：他大学（慶応・専修・関学・立命館アジア太平洋大学等）とのインゼミ（研究討論会：11 月上旬開催予定）に向けてのグループワークおよびそのブラッシュアップ。11 月以降は研究指導の補足、卒業論文へ向けての指導など。

注意 8 月下旬開催予定の日韓大学生学術シンポジウム（2022 年度は韓国ソウルでの開催を予定、新型コロナウイルスの状況次第ではオンライン開催）、11 月上旬開催予定の他大学とのインゼミ（国内開催）への参加は必須。

4 年次 卒業論文の中間報告と討論及び助言。

3. 指導テキスト及び参考書

追って指示する。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

ゼミ志望理由書の提出及び面接を実施する。応募者多数の場合、2 年次直近までの単位取得状況並びに学業成績に基づいた一次選考を行う場合がある。また、新型コロナウイルス感染状況によっては、面接の実施はオンラインに限定する。）

5. 面接・テスト等の日時・場所

追って manaba 上にてアナウンスを行う。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

ゼミはあくまで学生主体であり、学生の自主性・自律性を尊重するが、ゼミのモットーとして「ゼミ生同士は信頼関係が一生続く仲間である。」と「勉強も遊びも何でも一生懸命。」の 2 つを掲げている。当ゼミ生には上記モットーを実現するために、あらゆる場面において、それぞれが得意な形でゼミへの自発的かつ積極的な貢献が求められる。同時に担当者である私も、学習面のみならず、人間関係の構築、ゼミ生同士の相互交流、自由かつ快活な雰囲気作りなどゼミ活性化のためのあらゆる努力を惜しまないつもりである。

当ゼミのモットーに共感し、かつ上に挙げた「研究主題」に真摯に取り組む意思と意欲と能力を有する学生の志望を歓迎する。

以上

1. 研究主題 <Global Human Resource Management>

グローバル化の時代といわれて久しい。一昔前にも、人々はモノやカネの動きを介して、間接的ではあるがグローバルにつながっていた。しかし今や、言語や文化、出身地域や国の異なる人々が直接向き合ってくる場面がかつてなく増えている。この人的多様性を活かす力量があるかどうか、個人や企業、さらに地域や国の繁栄にとってますます重要になっている。歴史がくり返し見せてくれているように、多様性の増加によって、不寛容や差別、排除や葛藤が増幅されることも多い。一方、多様性をプラスに活かすための「知識」や「知恵」も着実に開発されてきた。本ゼミでは、人材管理の理論、CQ（文化知能）論などをふまえて、こうした問題への理解を深めていく。

2. 指導要領

以下の1)を主とし、場合によって2)を行う。

1) 文献輪読型： 指定された文献を読み、輪番で報告者を決め、ゼミの場で報告、ディスカッションを行う。

2) 課題解決型： 指定された課題に対し、各自で情報や知識を集め報告書をまとめ、ゼミで報告する。
※一部例外を除いて、テキストは英語文献。英語によるプレゼン(報告)を原則とする。ただし、ディスカッションにどれだけ英語を使用するかは、メンバーの語学レベルに応じて決める。メンバーには英語力アップを目指してほしい。

3. 指導テキスト及び参考書

David Livemore (2015), Leading with Cultural Intelligence など。

初日にその他文献を紹介する。

4. 選考の方法(面接・テスト等)

面接で決める。面接前日まで、以下の二点を email (kim@res.otaru-uc.ac.jp) に添付ファイル（ファイル形式は、MS Word、写真・画像、pdf など）にして送付すること。

- ①ゼミ志望理由書： A4紙1～2枚、氏名、学番、連絡先（電話、e-mail）、ゼミ志望理由を書く
- ②成績証明書(写しでも可)

5. 面接・テスト等の日時・場所

日時：11月9日(火) 12:00

11月11日(木) 12:00

場所：金の研究室（1号館519号室）

※対面面接を予定しているが、状況変化によって、ZOOMによるオンライン面接に切り替える可能性もある。その際は、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」にて知らせる。また皆さんの応募メールに返信するメールにて正確な面接時間と ZOOM アクセスリンクを送る。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

英語力については前記「2. 指導要綱」を見よ。今後の状況次第だが、対面授業と ZOOM によるオンライン授業を柔軟に使い分けられると思っている。

7. オープンゼミの日時・場所（予定） ※夜間主コースは記載不要

オープンゼミの情報は、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」の掲示板で知らせる。

教 員 名 近 藤 公 彦

1. 研究主題

このゼミの主題は、大きく2つあります。①学生ベンチャー、株式会社 i-vacs（アイバックス）の企画・運営を行います。②製品開発、ブランド、価格、流通チャネル、プロモーション、営業などマーケティングに関するケース（事例）研究を行い、実践的な分析・戦略立案能力を養います。

またこれに加えて、実際のマーケティング戦略立案を中心とした企業とのコラボレーション（これまでの実績：ネスレ日本、東洋水産、アサヒビール）、社会的健康戦略研究所主催による「健康×マーケティング」コンペティションへの参加、および経済学科・江頭ゼミ、社会情報学科・大津ゼミ、沼澤ゼミとのディベート大会を予定しています。

2. 指導要領

①ゼミ生は(株)i-vacsの社長、役員、社員として会社の運営を行います。これに関わる活動すべてが経営・マーケティングの実践です。②ケース分析では、ケース資料を読んで問題点・課題の分析、グループ・ディスカッション、発表、教員のコメント、を行います。いずれの場合も、教員はあくまでファシリテーター（促進者）であり、ゼミ生の主体的な参加が不可欠です。なお会社組織運営のため、ゼミは4年生との合同となります。

3. 指導テキスト及び参考書

ケース・メソッド資料、ならびにビジネス雑誌のケース資料（コピーして配布します）

4. 選考の方法（面接・テスト等）

面接を行いますので、次の要領で資料を提出してください。

- ① 標準的な履歴書の様式に沿ってプロフィールと自己紹介を行い（※ゼミ確定時に名前と顔を一致させるため、写真添付のこと）、
- ② 別紙でゼミの志望理由をA4（2枚以上）にまとめてください。

これらの資料を11月1日（月）、13:00までに以下のメールアドレスに送ってください。

kondo@res.otaru-uc.ac.jp

5. 面接・テスト等の日時・場所

日時 11月4日（木） 15:00～

具体的な面接の方法、スケジュール、場所については、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」の掲示板で別途、お知らせします。対面を予定していますが、状況によってオンラインの可能性もあります。なお、どうしても都合の悪い学生は、上記のアドレスに連絡してください。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

図らずも「ガチゼミ」と呼ばれていますが、本当にそんなことはありません。ゼミ活動はゼミ生の自主性・積極性に任されています。勉学に、会社運営に、企業とのコラボレーションに、各種ゼミ行事にと、決して楽なゼミではありませんが、その分、ゼミ活動を通じて大きく成長できると確信しています。また実際の会社の企画・運営に携わることは、学問とビジネスを結びつける非常に貴重な機会となります。なお、近藤ゼミは株式会社組織であり、会社運営を円滑に行うため内定者は決定後、すぐにゼミ活動に参加して

いただくことになります。密度の濃いゼミになりますが、その関係は卒業後も続く仲の良さにもつながります（卒業生によるゼミ支部会あり）。気力、知力、体力のみなぎるゼミ生の皆さんと共に過ごせる時間を楽しみにしています。

1. 研究主題

本ゼミは管理会計を主題とします。管理会計は、会計情報を中心にさまざまな情報を組織の経営管理に役立てていくための理論と技法から構成されます。管理会計を適切に用いるためには、会計についての基本的な理解に加えて、組織が採用している戦略についての知識と、組織内部の構造とプロセスについての知識が必要となります。本ゼミでは、これら会計、戦略、組織の3つの要素を学ぶことで、管理会計についての理解を深めていくことを目指します。

2. 指導要領

ゼミは発表とディスカッションが中心となります。テーマは、3年次では、会計、戦略、組織についての基礎的な知識に関して文献を輪読し、重要な項目についてディスカッションを行い理解を深めていきます。4年次からは、卒業論文の完成を目指して、各自が関心のあるテーマを設定し発表を行うという形態をとります。

3. 指導テキスト及び参考書

ゼミで用いるテキスト等については、進行状況に合わせて適宜指定します。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

選考は、面接で決定します。志望理由書の提出は要求しませんが、志望理由については重要な判断材料としますのでしっかりと考えてきてください。会計の知識については、ゼミに入ってから2年間で修得するというスタンスですので、選考時には特に問いません。

5. 面接・テスト等の日時・場所

現時点（2021年8月後半）では状況が不透明なため、面接の実施方法やスケジュールについてはmaambaコース「2022年度ゼミ選考」の掲示板で改めてお知らせします。10月下旬までに面接についてのお知らせを掲示し、11月前半に面接を実施する予定です。もしゼミの内容や募集等で質問や要望等ありましたら、msakai@res.otaru-uc.ac.jpまで連絡してください。

教 員 名 多 田 伶

1. 研究主題

－ マーケティング・リサーチの基礎と実践：地域ブランドの構築を目指して －

本研究会では、マーケティング・リサーチを行うなかで、消費者行動を分析し、地域の課題を解決することを目指します。地域ブランド、マーケティング・リサーチに必要な知識やスキルは基礎から学びます。まちづくりのコンペティションへの参加を通じて、実践的な分析・企画立案力を養います。

2. 指導要領

現在、以下のスケジュールを予定しています。

ゼミ全体として、「地域ブランド」をキーワードに挙げていますが、卒業論文についてはこの限りではありません。マーケティング上のさまざまな課題が研究の対象となります。

*3 年前期：マーケティング・リサーチ、地域ブランドにおける手法の学習

文献の輪読を通して、マーケティング・リサーチや地域ブランドの基礎的な知識を習得します。
統計ソフトウェアを用いた、データ分析の実践方法も学びます。

*3 年後期：地域ブランドのプロジェクト

まちづくりのコンペティションに参加し、マーケティング・リサーチに基づく企画立案を行います。

*4 年前期：卒業論文のテーマ設定

研究テーマを各自で発表し、卒業論文の方向性を決定します。

具体的なテーマが決まった後、調査設計を考えていくことになります。

*4 年後期：卒業論文の作成

研究に必要なデータを収集し、それらを分析します。

研究の進捗状況を発表し、最終的な論文を完成させていきます。

3. 指導テキスト及び参考書

以下、主な参考書です。テキストは初回の授業時にお伝えします。

*マーケティング関連

和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（2016）『マーケティング戦略（第5版）』有斐閣アルマ。

佐々木茂・石川和男・石原慎士（2016）『新版 地域マーケティングの核心』同友館。

*マーケティング・リサーチ関連

里村卓也（2014）『マーケティング・データ分析の基礎』共立出版。

ラッセルベルク・アイリーンフィッシャー・ロバートコジネッツ（2016）『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

エントリーシートと面接によって選考を行います。

*提出書類

エントリーシート（指定様式）

下記の研究会ページより、ダウンロードし、pdf ファイルで提出してください。

<https://sites.google.com/view/tadarei/seminar>

*提出期限

2021 年 10 月 29 日（金）

*提出先

Email: tada@res.otaru-uc.ac.jp

メールの件名に、「ゼミ応募書類」を明記してください。

5. 面接・テスト等の日時・場所

現時点では、対面形式での面接を予定しています。

ただし、新型コロナウイルスの感染状況によって、オンラインに変更になる場合があります。

*面接日程

2021 年 11 月 4 日（木）2 限・4 限・5 限、2021 年 11 月 11 日（木）2 限・4 限・5 限

上記の中で調整を行います。面接の時間は約 15 分です。

履修の関係で、上記日程での参加が困難な場合はお知らせください。

*面接場所

研究室（1 号館 509 号室）

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

マーケティングや消費者行動の観点から、北海道のまちづくりに一緒にチャレンジしましょう。

ゼミに関する質問がありましたら、「tada@res.otaru-uc.ac.jp」までお寄せください。

1. 研究主題

保険制度と保険業の特徴と動向

2. 指導要領

3年次：以下の(1)と(2)を行います

(1)指導テキストを読んで討論します。事前に毎回の報告者を決めておきます。報告者は、その回に取り上げる指導テキストの箇所のレジュメを作成し、教員とゼミ生に配布して報告します。その後、討論します。

(2)年2回（前期1回、後期1回）、レポート課題を出します。教員が指定した文献（本、論文、報告書など）を読んで、要約とコメントを書きます。

4年次：以下の(1)と(2)を行います

(1)「前期」と「後期の前半」は、上記の3年次の(1)と同じです。

(2)「後期の後半」は、卒業論文の作成指導を行います。1人2回、報告します。

3. 指導テキスト及び参考書

保険（損害保険、生命保険、第三分野保険、社会保険）の専門書を選定します。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

面接（対面面接）によって選考します（対面面接の日時・場所は下記です）。対面面接時に「志望理由書」などを持参する必要はありません。やむを得ない事情で対面面接に出席できない場合には、かならず事前にメールで教員に連絡してください（そのさい、さしつかえない範囲で「欠席の理由」を書いてください）。事前に連絡しないで欠席した場合には、対面面接を放棄したものとみなします。

5. 面接・テスト等の日時・場所

日時：11月2日（火）14時30分～

場所：3号館2階208B室（中央階段のすぐ横にあります）

※ 対面面接の日時・場所を変更する場合、または、対面面接から遠隔面接等に変更する場合、manabaコース「2022年度ゼミ選考」でお知らせします。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

(1)当ゼミに申し込みできるのは、自学科（商学科）の学生のみとします。

(2)当ゼミのオープンゼミは、とくに予定していません。

(3)当ゼミでは、ゼミを数回、無断欠席したならば、以後の履修を認めていません。

教 員 名 旗本智之

1. 研究主題

企業はどうしてこんなに違うのか。そんな素朴な疑問に答えようとする分野に管理会計があります。本ゼミナールでは管理会計の応用として企業価値経営を取り上げます。具体的には、財務諸表分析と企業価値評価がメインとなりますが、戦略、マーケティング、組織に関する知識とスキルもメインの土台として欠かすことができません。その意味では統合的ケース分析と言っても良いでしょう。

2. 指導要領

1日1章のペースでテキストを精読します。プレゼン能力も高めるために、毎回レジュメを作ってもらい、プレゼンしてもらいます。テキストの精読が終わったら、グループによるケース分析、個人によるケース分析を行ってもらいます。グループによる分析は3年生の後期、個人による分析は4年生で行います。また、これらの分析結果はアカウンティングコンペティションや学生論文賞でプレゼンしてもらいます。

3. 指導テキスト及び参考書

テキスト：伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞出版、2021年。

参考書：小樽商科大学ビジネススクール編『MBAのためのケース分析 三訂版』同文館出版、2020年。

他の参考書は適宜お知らせします。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

3のテキストの「はしがき」と「序章」を読んで、その内容と感じたことについてA4用紙3枚程度でレポートすること。また、面接を予定している。なお、レポートの提出方法については後日manabaを通じて連絡いたします。

5. 面接・テスト等の日時・場所

レポートの提出締切：11月10日(水)17:00

面接の日時と場所：11月11日(木)14:30@456ゼミ室

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

テキストは著者も言うように厚いので、この本と格闘してもらうことになります。ご注意ください。また、研究主題との関係で、2年生までで履修できる会計科目はすべて履修していることが望ましいです。

教 員 名：カロラス・プラート (Carolus Praet)

1. 研究主題

このゼミでは、二つのテーマについて研究していきます。一つ目のテーマは国際マーケティング全般を取り上げ、日本企業を中心に各国企業によるグローバル市場でのマーケティング諸活動についての研究です。二つ目のテーマはインバウンド観光マーケティングの研究です。

3年次の前期は国際マーケティング理論を中心に研究しながら、日本企業の国際マーケティング戦略の実例（ケース）を分析して、ディスカッションを行います。3年次の後期はインバウンド観光マーケティングについて研究します。なお、インバウンド観光及び国際マーケティングに関連するフィールドワークや現地調査を後志地方にて行う予定ですが、年度によってそのテーマ、場所や内容が異なります。

2. 指導要領

3年次：（前期）国際マーケティングのテキストを輪読、日本企業の国際マーケティングに関するケースの分析とディスカッション；（後期）インバウンド（訪日）観光マーケティングのテキストを輪読、インバウンド観光及び国際マーケティングに関連するフィールドワークを行う予定です。

4年次：卒業論文の作成に関する指導。

3. 指導テキスト及び参考書

（前期）小田部 正明, 栗木 契, 太田 一樹「1からのグローバル・マーケティング」(2017) 碩学舎
（後期）高井 典子, 赤堀 浩一郎訪日「訪日観光の教科書」(2014) 創成社

4. 選考の方法（面接・テスト等）

1) 以下の書類をパソコンで作成し、提出してください：

- 自己紹介（顔写真または顔がわかるスナップ写真付き）、枚数は自由です。ファイル形式はPDF、またはMSワード。名前に必ずふりがなを振ってください。
- 志望理由書。ファイル形式はPDF、またはMSワード。
- Campus Square の全履修済み科目成績画面（又、GPAが確認できる画面を含むもの）の コピー（PDF、または写真）

2) 面接を行います。

5. 面接・テスト等の日時・場所

上述「選考の方法」に記載されている全ての提出書類を 添付ファイルとして 10月29日(金) 17:00（必着）までに下記のメールアドレスへ提出してください（メールは日本語で結構です）：
praetcar@res.otaru-uc.ac.jp

面接は11月4日(木)14:40より ZOOMにて行う予定です。なお、面接のZOOMリンク等の詳細は志望者の皆様にメールにて事前に通知しますので、日程が近くなったら、メールを定期的に確認してください。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- 週末や平日の昼間でもゼミ活動（現地調査等）に参加可能な学生を優先的に選考します。
- マーケティング関連科目の「流通システム論」及び発展科目の「マーケティング」を履修済み（又は履修中）であることが望ましいです。
- ゼミは日本語で行います（無論、英語も対応可能です）。
- ゼミは原則としてすべて出席すること。無断欠席は履修中止となります。

7. オープンゼミの日時・場所（予定）

● オープンゼミは10月14日(木)14:30-17:00、10月19日(火)14:30-17:00、および10月21日(木)14:30-17:00にZOOMにて行う予定です。

● ZOOMミーティングの詳細は下記の通りです。

<https://zoom.us/j/99286932607?pwd=MFhKdlg3cmtNSHBqbjZvcGNobHNbdz09>

Meeting ID: 992 8693 2607

Passcode: 935472

なお、新型コロナウイルスの感染状況の改善によりオープンゼミは対面での実施が可能になった場合、manabaにてお知らせしますので、オープンゼミの日程が近くなりましたら再度ご確認ください。

教 員 名 林 松国（リン ソウンコク）

1. 研究主題

中小企業が主な研究の対象となります。日本の中小企業は全企業数の 99%以上、従業員数の約 70%を占めており、中小企業は日本経済の活力の源泉です。また、一口に中小企業と言っても、そこには家族で経営する個人商店、長寿型老舗企業、ベンチャー企業、グローバルニッチトップ企業など、その規模・態様は実に様々です。

本ゼミでは多種多様な中小企業の本質を分析するために、競争戦略、イノベーション、企業間取引関係、の 3 つの視点から中小企業の発展性と問題性について理論的、実証的に研究します。

なお、大企業との比較研究も学習内容の一部であり、また、東アジア中小企業との比較研究も視野に入れています。

2. 指導要領

3 年次前期：イノベーションや中小企業理論に関するテキストと参考書について輪読します。輪読は指定された文献を事前に読み、ゼミの場で報告と討論をする方法で行います。討論には積極的に参加することが求められます。

3 年次後期：グループを分けて、興味のある研究テーマを探して研究報告を行います。

4 年次：各自の興味・関心に応じて研究テーマを設定し、研究報告・討論を順次に積み重ね、卒業論文を作成していきます。

また、コロナの影響で変動的ではありますが、中小企業の実態に対する理解を深めるために製造業を中心に企業見学を実践する予定です。

3. 指導テキスト及び参考書

テキスト：

渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫『21 世紀中小企業論』

近能善範・高井文子『イノベーション・マネジメント』

港徹雄『日本のものづくり競争力基盤の変遷』

参考書：

一橋大学イノベーション研究センター『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社

『中小企業白書』各年 <http://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/>

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書と面接によって選考します。

志望理由書（様式・枚数は自由）は、10 月 27 日（水）17 時までにメールに添付して、

linsonguo@res.otaru-uc.ac.jp に送ってください。

なお、本ゼミは教員のサバティカル研修に伴い現在非開講であるため、オープンゼミはありませんが、質問などについてメールなどでお気軽に連絡してください。

5. 面接・テスト等の日時・場所

追って通知します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

中小企業のみならず、日本経済の強みであるものづくり企業に興味を持つ学生を広く募集します。また、日本企業だけでなく、東アジア企業に興味のある学生も歓迎します。

1. 研究主題

- ・各自の卒論の内容(卒論の内容は民法に関連していれば何でも可)。

2. 指導要領

(1) 概要

- ・当ゼミの目標は「説得力ある分析視角を身に着けること」です。社会的な事実としては1つの事象であっても、それを捉え、評価する方法は人の数だけ存在します。しかし、その全てに納得できるわけではありません。説得力に差があるからです。説得的な考え方とは何か。法律問題を扱う過程で、説得力ある思考方法を身に着けることが当ゼミの目標です。この能力は、法律家を目指すかどうかに関わらず、重要な能力です。各ゼミ生が意見を出し合う中で、自分の意見を客観視し、どのような物の見方が説得的で、自分に何が足りないのか、を気付けるように指導します(が、これが中々難しく、それでも何とか頑張ろうと思っています)。

(2) 報告

- ・意見を出し合い、能力を磨く機会として、判例報告や卒論報告を行ってもらいます。報告者だけではなく、その他の参加者も積極的に発言するように努めてください。各回、「だれがどのような発言をしたか」を記録する係を任命します。その担当者には発言録を作成してもらい、次回ゼミの参考にします。

3. 指導テキスト及び参考書

- ・いわゆる六法。最新の六法を用意してください。

4. 選考の方法(面接・テスト等)

- ・選考方法: レポートのみ(内容は卒論テーマ(仮)。字数および様式は自由。word データをメール添付して下さい)。
- ・提出先: iwamoto@res.otaru-uc.ac.jp
- ・提出期間: 10月1日～10月31日。
- ・応募条件: 民法基礎 I・II を履修済で、かつ民法 II を履修中であり、しかも民法 III・IV を履修する予定であること。

5. 面接・テスト等の日時・場所

- ・なし。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- ・参加態度が不真面目であった場合または正当な理由なく欠席・遅刻があった場合、卒業論文を評価しません。
- ・zoom による遠隔参加も可能(ただし、遠隔参加者には、報告に際して、対面参加者以上の工夫を求めます)。
- ・当ゼミは木曜日開催の3・4年合同ゼミです。

教 員 名 片桐由喜

1. 研究主題

2022 年度の当ゼミは、①社会保障判例の研究と②「医療」と「住宅」をテーマとする社会保障制度のセイフティネット機能の検討を行います。この2つは現下のコロナ禍の中で、セイフティネットとして十分な制度的保障が用意されていないことが明らかになりました。その背景と、今後の方策を考えます。

2. 指導要領

- ①判例研究は、判決原本を読み、その結論の当否をゼミで議論します。
- ②セイフティネット研究は、新聞記事、各種論文を参考に今日の問題点と現行制度の課題の抽出、今後の方策の提示などを課題とします。

3. 指導テキスト及び参考書

ゼミ指導時に教示します。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書の提出と面接。

志望理由書は10月29日午後5時までに片桐研究室ドアの箱に入れる、あるいは、メールに添付して提出してください。メールアドレスは、katagiri@res.otaru-uc.ac.jp。

メールで提出する場合にはメール送信のマナーを守ること。

5. 面接・テスト等の日時・場所

現時点では対面での面接を予定しています。

面接実施日は11月1日（月）、2日（火）、4日（木）、実施時間は志望人数確定後にmanabaにて周知します。

なお、場合によってはオンラインによる面接となることがあります。そのときもmanaba上で周知するので、留意してください。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

当ゼミでは社会保障制度に限らず、社会問題に関心を持ち、自ら調べ考え、それを自分の言葉で話すことが求められます。

教 員 名 河 森 計 二

1. 研究主題

法的な「考え方」の修得は、社会に出たときさまざまな場面で役立ちます。しかし、この法的思考力の修得は意識して繰り返し訓練しなければ修得することは困難です。このゼミでは、さまざまな社会問題を法的観点から検討することで、法律の基本的な知識の修得とともに法的思考力の獲得を目的とします。

2. 指導要領

ゼミの具体的な内容については、履修者が確定した後、履修者と相談のうえ決定します。さしあたり、履修者が興味のある裁判例や新聞の記事等から法律に関係する問題を選択し、それについて担当グループでレジュメを作成し、ゼミ生みんなで「考える」ことを通して討論を行います。

なお、本ゼミは木曜日に3・4年合同ゼミ形式で行います。

3. 指導テキスト及び参考書

テキスト及び参考書は、履修者と相談のうえ決定します。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

選考は、志望理由書と面接（Zoomを使用）によります。

（1）志望理由書

【記載事項】

- ①氏名・学籍番号・所属学科
- ②メールアドレス（PCからのメール受信が可能なもの）・携帯電話番号
- ③自己紹介&河森ゼミを志望する理由

【書式】

Word形式 A4 版用紙で提出すること以外、すべて自由です。

（2）面接

提出いただいた志望理由書を参考に Zoom による面接を行います。

5. 面接・テスト等の日時・場所

（1）志望理由書の提出

締め切り：10月27日（水）午前10時まで

提出方法：電子メール（提出先：河森 E-mail : kawamori@res.otaru-uc.ac.jp）に志望理由書を添付のうえ提出してください。ただし、メール以外の提出方法を希望する場合は、1号館の研究室・534室に持参してください（不在の場合は、ドアの下から研究室内に入れてください）。

（2）面接

面接の詳細な日時と Zoom-ID・パスコードはおってメールで連絡します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

ゼミの仲間とのいまという時間を大切にしてくれる方、大歓迎です。勉強するときは勉強し、あそぶときはおもいきり遊ぶことで、学生時代だけではなく、生涯つきあえるゼミの仲間を獲得してください。

質問があればメール等で気軽に聞いてください（河森 E-mail : kawamori@res.otaru-uc.ac.jp）。

教 員 名 國 武 英 生

1. 研究主題

國武ゼミは「労働判例研究」を行います。

ゼミは、職場の紛争をめぐる裁判例を題材にして、ゼミ生同士で事前に検討し、自分達の解釈を発表し、それについて議論する場です。裁判例を多面的に検討することにより、①判決文の理解能力、②法的思考能力、③プレゼンテーション能力、④ディベート能力、⑤問題解決能力の獲得を目指します。

2. 指導要領

國武ゼミは、仲間とともに考えるプロセスを大事にしています。ゼミの進め方は、3人1組のグループで事前に裁判例について議論し、その内容をレジュメにまとめ、ゼミの時間にプレゼンテーションを行います。後は納得するまで議論です。

3年次は、裁判例を検討するなかで論点や問題点を発見し、それを法的に解決に導く作法を修得することを目標にします。4年次は引き続き、3年生と合同で裁判例の検討を行うとともに、卒業論文を執筆します。卒業論文は、労働法の諸問題のなかから、未解決あるいは創造的な課題を自ら設定し、執筆を進めます。

3. 指導テキスト及び参考書

- ・村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選[第10版]』有斐閣(2022年1月出版予定)
- ・六法(小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)
- ・取り上げる裁判例、参考文献等は演習開講時に示します。

4. 選考の方法(面接・テスト等)

選考のため面接を実施します。下記の要領でエントリーすること。

①ゼミ希望調査のアンケートフォーム(WEB)に「國武ゼミ」を希望ゼミとして入力

②10月27日(水)までにメールでエントリー

メールの件名を「ゼミナール履修希望」とし、本文に名前、学籍番号、電話番号を記入し、下記アドレス宛に送信すること。 メールアドレス:kunitake@res.otaru-uc.ac.jp

5. 面接・テスト等の日時・場所

面接を実施します。面接の日時・場所・志望理由書等の詳細についてはメールで連絡します。現状では、Zoom で面接を行う予定です。面接方法についてもメールでお伝えします。

オープンゼミを開催予定です。オープンゼミの詳細は、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」掲示板で周知します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

現実の職場で起きている問題は、ときに映画やドラマよりもリアルでスリリングです。

これまでのゼミでは、郵便局の長髪・ひげを禁止するみだしなみ基準が争われた事案(郵便事業(みだしなみ基準)事件)や、管理職のセクハラ発言に対する懲戒処分の有効性が争われた事案(海遊館事件)などを検討しました。現実起きた問題を法的な推論を駆使して解決に導くというのは、実定法学にしか味わうことのできない醍醐味でしょう。

他のゼミと比べると、課題の量は多いかもしれませんが、しかし、仲間と切磋琢磨することで、論理的な法的思考力や問題を発見する力を主体的に身につけることができます。あきらめずに課題に取り組むことで、そこから新しい境地にも立つこともできます。

大事なことは、常識や通説といったものを疑う視点を忘れないことです。世の中には、数えきれないほどの不確実性があります。ゼミでの活動を通じて、現状の枠組みが最善でないと常に問い続けることの大切さや、自分自身で考える力を磨いてほしいと考えています。

労働法がおもしろそうだ、仲間と熱く議論してみたいと思える学生であり、かつ、報告の機会があることをアピールポイントとして前向きに考えられる学生を歓迎します。

1. 研究主題

「国際」的で「経済」と「法」に関わる現代的課題の中から、履修者の希望をふまえて決めます。

2. 指導要領

グローバル化する社会における国際ルールの役割について、就職活動の際に役立つだけでなく、卒業後も生かすことのできる知的スキルを身につけることが目標です。自発的に問題を見つけ出し、他のゼミ生と意見交換しながら学際的に問題解決に取り組んでいく姿勢が求められますので、履修者には自主性が強く期待されます。

基本的な研究手法を3年次に修得した上で、4年次には各自の具体的主題について調査を進めます。そして、ゼミ内外で発信する等の活動を行いながら、卒業論文の執筆に取り組みます。

3. 指導テキスト及び参考書

研究主題が決まった後に指定します。過去に用いたものの例として、下記のようなものがあります。

- ・ティナ・シーリグ『20歳のときに知っておきたかったこと：スタンフォード大学集中講義』（新版）（CCCメディアハウス，2020）
 - ・大村敦志『ルールはなぜあるのだろう—スポーツから法を考える』（岩波書店，2008）
 - ・ピエトラ・リボリ『あなたのTシャツはどこから来たのか？：誰も書かなかったグローバリゼーションの真実』（東洋経済新報社，2007）
 - ・ラッセル・ロバーツ『寓話で学ぶ経済学：自由貿易はなぜ必要か』（日本経済新聞社，1999）
- 図書館で借りるなどして目を通しておくと、当ゼミの特徴について理解しやすいかと思います。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書（A4一枚程度でeメールに添付または本文ベタ打ち。様式自由。）によって選考します。学外活動／GPA／各種資格／社会経験／留学希望等も参考にしますので、志望理由書に適宜記載して下さい。

5. 面接・テスト等の日時・場所

申込期間中に、教員宛にeメール（フリーメールからでも構いません）で志望理由書を提出して下さい。原則として2日以内に、面接の日程照会を返信しますので、希望の日時を連絡してください。対面かオンラインかは、応募者が選択できます。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- ・所属学科は問いません。「国際経済法」は3・4年次配当科目ですので、ゼミ開講時点ではこの分野について初心者であっても構いません。
- ・ゼミ所属期間中に留学、起業や課外活動等で知見を広げることは推奨しますし、できる限り支援します。
- ・木曜日に3・4年合同ゼミを行います。学外での実地調査や、他ゼミとの合同ディベートを行う可能性があります。短期留学プログラムの留学生が履修する場合、彼らと積極的に意思疎通することが期待されます。
- ・語学のゼミではありませんので、外国語能力は問いません。多様な属性を持つゼミ生と意思疎通し、信頼関係を築く努力をすることが期待されます。
- ・マイナー科目の無名ゼミですので、このゼミを履修すること自体では、就職活動に有利になることはなさそうです。ただ、知らないことに挑戦していくのに積極的な方は、楽しめると思います。

教 員 名 齋 藤 健 一 郎

ゼミ説明の動画を用意します。このゼミに関心がある学生は下記まで。

ツイッター Kenichiro SAITO (@ksaito_OTARU) に DM

メール ksaito@res.otaru-uc.ac.jp

※ 「学生番号」および「ゼミ説明の動画を希望」と記して下さい。

1. 研究主題

「法と時間」に関する研究を行う。担当教員は行政法が専門なので、行政法や憲法と関係する論点を中心となる。

具体的には、3 年次には、次のようなテーマを取り上げる予定。

- 法律はいつからしたがわなければならないか？
- 法律を直ちに適用していいのか？ 法律をその制定前の行為に適用していいのか？
- かつて公害を排出した企業には、いつまで責任を問えるか？
- 時の経過によって法律上責任を負わなくなってよいのか？
- 戦前・戦中の行為により国は責任を負うべきではないのか？
- 20 年前のセクハラ行為により公務員をクビにできるか？
- 裁判ではいつの時点の法律を基準にして判断をすればよいのか？
- 住民に対して誤って支給した補助金を市町村は取り戻せるか？
- 憲法は過去の常識を覆せるか？
- 裁判所は判例を変更して変更前の行為を裁けるのか？
- 将来の損害賠償をあらかじめ求めることができるか？

4 年次は、法と時間に関する学術論文（様々な法分野、法哲学）を読む。

2. 指導要領

3 年次 は、上記の論点を、1 つずつ、3 週間かけて検討する。

論点・裁判事例について教員が解説をする。

ゼミ生は、授業中や事前に、文献・判決文を読む。授業時に、論点・事例の検討や意見発表を行う。

4 年次 は、法と時間に関する様々な論文を読む。

報告をしてもらい、質疑・議論をする。

年に 2 回、3 月と 9 月に ゼミ合宿 を行う。3 月は小樽、9 月は道内（未定）。

卒論を書き上げられるよう、文章の書き方や形式を教えます。文章の添削もします。

3. 指導テキスト及び参考書

文献や判決文は manaba 上で配布するか、ゼミにて配布する。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

1 次選考 6 名 / 2 次選考 3 名

→ 希望者がこの人数内であれば、選考はしない。希望者全員が履修可。

→ 希望者がこの人数を超えた場合、以下を総合考慮して選考する。

企業法学科を優先 / 法律科目の単位取得数とその成績 / 面接での志望動機の確認

* 1 次選考では、11 月 1 日(月)頃 に、選考しない場合も、する場合も、「manaba コース「2022 年度ゼミ選考」および学内掲示板にて連絡をする。選考する場合には、面接の日程調整をする。履修の可否(可否)も、「manaba コース「2022 年度ゼミ選考」」に掲示する。

* 2 次選考では、第 1 次選考結果発表及び第 2 次募集告知期間【11 月 1 日(月)～11 月 19 日(金)】内に、冒頭の連絡先あてに、申し込みをしてください。

5. 面接・テスト等の日時・場所

上記4のとおり、希望者が多い場合のみ面接をする。

面接は、【1次選考 11月1日(月)～11月12日(金)】【2次選考 11月22日(月)～12月6日(月)】の間で、ZOOMかゼミ室で行う。日時は相談の上で決める。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

東京都出身、埼玉県で20年ほど過ごし、北海道に来ました。

浦和レッズとコーヒーと、最近はランニングが好きです。

「時間」は誰にとっても身近で誰もが語れる話題です。ゼミでは、「法と時間」について、皆さんとともに考えてきたいと思っています。

教 員 名 才 原 慶 道

1. 研究主題

知的財産法

2. 指導要領

2年間かけて、下記のテキストを輪読する予定です。

4年次になったら、これに卒業論文の執筆が加わります。

3. 指導テキスト及び参考書

テキストは、

Tyler T. Ochoa, Shubha Ghosh, Mary LaFrance,
UNDERSTANDING INTELLECTUAL PROPERTY LAW, Fourth Edition,
Carolina Academic Press

になります。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

Zoom を使って面接を行います。

5. 面接・テスト等の日時・場所

2021年11月2日（火）の午後2時30分～午後4時の間を予定しています。

面接の日時を調整したいので、アンケートフォームでこのゼミを第1志望として登録した人は、それとは別に、saihara@res.otaru-uc.ac.jp 宛てに、2021年10月27日（水）までにメールを下さい。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

3、4年合同のゼミになります。曜日は木曜日を予定しています。

教 員 名 菅沼 真也子

1. 研究主題

このゼミでは、刑法の諸原則や諸問題について学修・研究するとともに、ゼミ員を 3～4 人ずつグループ分けし、判例をベースにして作成した事例について、「検察官側」と「弁護人側（被告人側）」に分かれて討論を行います。討論課題は刑法総論および各論に関する事例を基本とし、希望があれば刑事訴訟法や刑事政策に関連するテーマも取り上げることがあります。

2. 指導要領

刑事司法における諸原則や思考方法を知ることを通じて、法的・論理的思考力を身に付けることを当ゼミの主眼の 1 つとします。具体的にいえば、検察側と弁護側に分かれた討論、ならびにそのためのレジュメ作成を通じて、文章を正確に理解する能力、人が理解しやすい文章を書く能力、原理原則や学説に従って論理的に問題を解決する能力、周囲を納得させ、自分の考えを適切に伝えることができる能力等の獲得を目指します。

ゼミの進め方は次の通りです。3 年次の前期には、刑法の諸問題について 1 人 1 課題ずつ報告・学習して基本的な原理について確認し、その後、判例を課題として、グループに分かれて事前準備をしたうえで討論します。夏期集中ゼミ（夏休み期間中に 1 日実施する予定）および後期には、判例をベースにした事例について、検察・弁護に分かれた討論を行います。前期の報告課題および討論の素材となる判例については、ゼミ開講後に指示します。その他、合同ゼミでの討論等も実施することがあります。

3. 指導テキスト及び参考書

基本的にはテキストは使用しません。参考文献については必要な範囲で適宜指示します。六法だけは必ず毎回持参してください。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

書類によって選考します。

下記のテーマのレポート、ならびに下記の内容を記載した志望理由書をメール（宛先：msuganuma@res.otaru-uc.ac.jp）にて提出してください。

提出期日は **10 月 31 日（日）**、形式はワードないし PDF（windows の PC で閲覧できるソフトで作成してください）。レポートと志望理由書を分けて作成・提出すること。それぞれのファイル名には「志望理由書」ないし「レポート」および「学籍番号・氏名」を入れてください。志望理由書の様式は問わないので、写真を掲載したり色を使うなど、自由に記述して構いません。

（1）レポート課題

「刑法における罪刑法定主義とその派生原則について論ぜよ。」

※1000 字～1500 字程度。

（2）志望理由書

- ①自己紹介
- ②本ゼミを志望した理由
- ③刑事法に関して興味のあるテーマ
- ④学生生活で頑張ったこと・頑張っていること

5. 面接・テスト等の日時・場所

実施しません。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

教員が学生に勉強を教えるのではなく、学生であるみなさんが主体となって、楽しく有意義にゼミを進めていてほしいと思っています。みなさんで積極的にゼミを作っていてください。法律の勉強が得意でなくても、あるいはやったことがなくても、学科を問わず、刑法に少しでも興味のある人・やる気のある人・しっかり勉強したい人・考えることが好きな人を歓迎します。刑法を履修しているか否かは問いません。状況的に可能となれば刑務所参観も実施する予定です（2019 年は 10 月に札幌刑務所への参観を実施）。

1. 研究主題

法学の学習や研究をする上で、裁判例を読み込むことは避けることができないことです。このゼミでは、会社法の重要な最高裁判決について原審から順番に裁判例を読みながら、会社法の基本的な知識がどのようにして運用されているかを研究することを目的とします。

2. 指導要領

ゼミの具体的な指導内容については、会社法や商法の裁判例を読み込むことを中心とすること以外は、受講者との相談によって決定します。当面は、会社法判例百選にある重要な最高裁判例の中から、受講者の興味のある裁判例を選択し、ゼミの各回に報告者を定めて事例の紹介、第一審・第二審・最高裁の順番に、判決内容を整理したうえで検討する、という形式を予定しております。なお、ゼミは3年生および4年生の合同ゼミとして実施します。

3. 指導テキスト及び参考書

岩原紳作＝神作裕之＝藤田友敬編『会社法判例百選』（有斐閣、第3版、2016）

このほかの教材については、受講者と相談したうえで決定します。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

選考方法は、志望理由書を事前に提出したうえで、面接等によって決定します。

【志望理由書】

①氏名・学籍番号・所属学科

②連絡先（メールアドレス）

③自己紹介や商法、会社法の学習状況（単位の取得など）、会社法のうち関心のある単元、その他、会社法や金融について関心のある事柄などを簡潔に記載してください。

【様式】

A4 Word 文書 1 頁から 2 頁程度 電子メールによる添付書類として下記 6. のアドレスに送付してください。

【面接】

志望理由書をもとに、簡単な面接を行います。志望理由書に書いたことについて、質問に回答できるように準備しておいてください。

5. 面接・テスト等の日時・場所

志望理由書の提出期限や面接は、選考期間内とします。詳細な期限および日時については、図書館前およびゼミ室の扉の掲示にて連絡します。面接の時間等は受講希望者の人数を見てから決定します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

ゼミについて質問がある場合には、下記のメールアドレスに氏名と学籍番号を明記したうえでご質問ください。

【担当教員連絡先】

stakahashi.lecsem.otaru@gmail.com

会社法や商法をしっかり勉強したいという方の希望に応えられるゼミにしていきたいと思っています。

コロナウイルスの状況を判断して、適切な方法により、連絡や面接を実施します。念のため、希望者は、教員からのメールによる連絡や ZOOM による面接に対応できる環境を準備しておいてください。

教 員 名 多 木 誠 一 郎

1. 研究主題

本ゼミは図書を読むゼミです。色々な分野の図書を取り上げますが、法学分野の図書も取り上げます。これまでに取り上げた図書は、例えばプラトン『ソクラテスの弁明』、デカルト『方法序説』、ミル『自由論』、ウェーバー『職業としての学問』、オーエル『動物農場』、新渡戸稲造『武士道』、柳田国男『遠野物語』、渋沢栄一『論語と算盤』、夏目漱石『こゝろ』、谷崎潤一郎『痴人の愛』、ドストエフスキー『地下室の手記』、モーム『月と六ペンス』、ヘッセ『車輪の下』、鴨長明『方丈記』、シェイクスピア『マクベス』です。ゼミ生の皆さん1人1人が図書をじっくり読んで、それをもとに自分の頭で色々と考えて、表現できるようになることを期待しています。

2. 指導要領

教員とゼミ生の皆さんと一緒に図書を読んで、ディスカッションをしていきます。あらかじめ図書を選定し、ゼミの時間までに当該図書を読んでくることが、ゼミ出席のための前提です。ゼミの時間では、図書の内容について自由にディスカッションします。自分の体験に引きつけて発言するのよし、図書の書かれた種々の背景について調べてきて発言するのよし、著者のその他の著作と比較するのよしです。

取り上げた図書の中から10冊程度を選んで書評を執筆してもらい、それを以て卒業論文とします。

3. 指導テキスト及び参考書

100年(1000年)後も読み継がれているであろう図書、あるいは100年(1000年)もの間多くの人の手垢にまみれながらも生き残ってきた図書を取り上げます。①ゼミ生の皆さんが社会に巣立った後、何度でも読み返すに値するような図書、②実地的な基準でいえば、就職面接で尋ねられたときに、堂々と答えることができる図書を取り上げたいという考えでもあります。

4. 選考の方法(面接・テスト等)

(1)下記(2)書類及び面接で選考します(書類選考のみで合否を決める場合もありますので、よく考えて書類を作成してください)。第一次選考は、原則として企業法学科の学生さんのみとします。

なお 他学科の学生さん で特に志望する学生さんは、10月22日(金)午後5時までに下記5(2)宛てにメールで一報願います(記載事項は、希望する旨、連絡先の電子メールアドレス・電話番号)。メールを受領したら、速やかに担当教員から連絡します。連絡がない場合には、担当教員に再度連絡下さい。

(2)下記①～⑩の事項を記入したワープロ作成書類(様式・分量自由)を、添付ファイルで下記5(2)宛に 10月26日(火)17時までに送付 してください。メール件名は、「【学生番号・氏名】ゼミ志望」です。メールを受領したら、速やかにメールでその旨返信します。返信メールが到着しない場合には、担当教員に連絡下さい。

①学籍番号、②氏名(ふりがなを振る)、③電話番号、④電子メールアドレス、⑤興味ある大学授業科目とその理由、⑥大凡1年以内に読んだ図書(3冊程度)で印象深いものとその理由(いつ読んだかを明記。図書を読んでいない場合にはその旨記入、無理にこじつけないこと)、⑦ゼミで読んでみたい図書(3冊程度)とその理由(上記⑥と重複可。その場合には上記⑥⑦併せて6冊程度挙げて下さい。)、⑧ゼミに期待すること、⑨自己紹介・アピール(学業・サークル・アルバイト・趣味・特技など何でも可)、⑩その他。

(3)面接希望時間についての詳細は、上記(2)返信メールにて個別に連絡します。

5. 面接・テスト等の日時・場所

(1)面接日時・場所 11月1日(月)10時頃～17時頃(志望者数により変わります。) ゼミ室(205A)あるいはZOOM 仮想会議室にて。変更する場合には、manaba コース「2022年度ゼミ選考(仮称)」の掲示板(又は電子メール)を通じて連絡します。

(2)都合により上記(1)日時に面接を受けることができない場合には、事前連絡をお願いします。個別対応します。

連絡先 taki@res.otaru-uc.ac.jp(メールアドレス)／0134-27-5374(研究室電話)

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

3年生は、大学生活の折り返し地点です。また就職に関する活動も実質的に始まり、だんだんと忙しくなってくる

時期かと思います。このような中でちょっと立ち止まって一緒に図書を読みましょう。ゼミで取り上げる図書が、ゼミ生の皆さんにとって「血となり、肉となり、骨となる」ことを期待しています。

2022年度については3年生・4年生合同ゼミを予定しています(2023年度については未定)。質問等がある場合には、上記5連絡先までお気軽に。

7. オープンゼミの日時・場所(予定)

10月5日(火)・12日(火)・19日(火)14時30分～16時10分頃までを予定。詳しくは、manabaコース「2022年度ゼミ選考」の掲示板にて別途掲示します。

1. 研究主題

今年度は、「民法・消費者法の重要問題の研究」をテーマとします。

普段あまり意識しないかもしれませんが、我々の日常生活においては、市民社会のルールともいわれる民法が、日々機能しています。また、その日常のなかで頻繁に行われている取引をするにあたっては、その特別法に当たる、消費者契約法や特定商取引法などの、いわゆる消費者法と呼ばれる法律群も重要な役割を果たしています。そのため、一私人として社会の中で生活するうえでも、また企業の中で活動していく中でも、この民法や消費者法の役割を理解しておかなければなりません。特に大学の商学部で学んだ者は、それらの法律の役割や機能の仕方を把握し、日常生活やビジネスの中で率先してその知識を駆使していくことが求められるでしょう。

そこで、本ゼミナールにおいては、文献、重要な判例・裁判例の検討、演習問題へのチャレンジを通じて、民法・消費者法の基礎知識を確認するとともに、その解釈や適用の実態を分析することを目的とします。これにより、民法・消費者法の役割の実情を知り、そこに関わる法律の深い知識を養うことができるでしょう。ある事案などを読んで、民法・消費者法の観点から解説できるようになること、が目標です。

2. 指導要領

(1) まず3年生前期においては、重要な論点に関する演習問題の検討を交え、民法および消費者法の基礎知識を確認していきます。参加者の皆様には、数名のグループに分かれ、指定した判例、裁判例、文献につき、調査、報告を行っていただきます。さらに他の参加者の方からの質疑応答をもふまえて、理解を深めていきましょう。“時間内に相手に情報を、正確に、わかりやすく伝えていく”練習も兼ねています。そのうえで、報告いただいた内容をもとに、参加者全員で演習問題を紐解いていく予定です。

(2) 3年生の後期からは、参加者の皆様のご関心に沿ったテーマを多く取り上げながら、引き続きに、判例、文献、演習問題の検討を行います。また卒業論文のテーマ選択も進めていきます。

(3) 4年生では、卒業論文のテーマを前提に、関心のある法律問題につき、調査、報告を行っていただきます。最終的には、そこまで扱った題材をもとに、卒業論文の完成を目指しましょう。

(4) なお、本学では、ゼミで取り上げる予定の消費者法の講義は用意されていません。そのため、ゼミが本格的に始まる前の春休み中に、テキスト（こちらは改めて指定します）を用いて、その基本知識を確認していく予定です。こちらも是非お付き合いください。

3. 指導テキスト及び参考書

① 本ゼミは民法の基本知識が必須になります。民法関連科目で使用した教科書を改めて参照してみてください。なお、民法関連科目を十分に履修していないという方は、下記の文献を用意し、一読しておくようにしてください。

・潮見佳男『民法（全）（第2版）』（有斐閣、2019）

② 法学自体に不安がある方は、下記の文献を用意し、一読しておくといよいでしょう。条文の読み方から、丁寧に取り上げられています。

・道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に（第2版）』（弘文堂、2017）

4. 選考の方法（面接・テスト等）

(1) 今年度の選考は、志望理由書と面接によって行います。2021年11月1日（月）までに、下記の①～⑤の事項を記載したものの文章作成ソフト（wordなど。PDF化していただけますと助かります）で作成いただき、竹村研究室のアドレス（stakemur@res.otaru-uc.ac.jp）に送付してください。文字数やサイズは指定致しません。

① 氏名、学生番号

② 本ゼミナールを志望する理由、本ゼミナールでの目標。

③ 本ゼミナールで取り組んでみたい民法または消費者法関連の法律問題（実際に関連するかどうかわか

らなくても構いません)。および、その問題に対する、現在のご自分の見解、その理由。特に取り組みたい問題がない場合も、その理由を記載してください。

④ 法学関連科目の履修状況。また今後の履修予定。

⑤ 連絡先となるメールアドレス。

※メールのタイトルは【ゼミ志望理由書】と明記しておくようにしてください。他のメールと紛れないようにするためです。ご協力、よろしくお願いいたします。

(2) 面接では、提出いただいた志望理由書をもとに、本ゼミナールの志望理由や、今後のゼミナールでの活動目標などについて、お尋ねします。時間は、お一人当たり、15分程度を予定しています。

(3) 選考結果は、選考結果発表期間内(11月1日(月)～11月19日(金))に、適宜発表いたします。連絡先のメールアドレスか、掲示によって発表する予定です。

5. 面接・テスト等の日時・場所

(1) 4. のとおり、今年度の選考は、志望理由書と面接によって行います。11月1日(月)までに、志望理由書を研究室のアドレスまで送付してください。

(2) 今年度の面接は zoom にて行う予定です。志望理由書を確認した後、記載いただいた連絡先に、面接の時間とパスワード等を通知いたします(ご都合がつかない場合には、別途調整いたしますので、お申し付けください)。面接は、第1次選考期間内(11月1日(月)～11月12日(金))に実施いたします。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

(1) 本ゼミナールでは、調査、報告の準備に多くの時間を費やすことになります。そのため、ゼミナールでの活動に積極的に取り組める方を募集いたします。

なお、法学や民法関連の学習が十分進んでいないという方でも、興味をお持ちであれば、参加を歓迎いたします。調査や報告を通じて、一緒に学んでいきましょう。ただし、相応の努力は必要になるものと思われれます。

(2) ゼミナールの運営などについてご質問のある方は、下記のメールアドレスにお問い合わせください(遠慮なさらず！)。ゼミナールに関する面談のご希望があれば、喜んでお引き受けいたします。

・ 竹村研究室 stakemur@res.otaru-uc.ac.jp

教 員 名 張 博一

1. 研究主題

国際法は国内法とは異なる独自の規律体系を有しているため、みなさんにとっては馴染みが薄い分野であろう。また、国際法の対象も人権、経済、環境など様々な分野に拡大し、より複雑になりつつある。しかし、昨今の国際情勢及び日本を取り巻くアジア地域的外交、経済、安全保障関係に鑑みれば、「国際社会の法」である国際法の重要性はいくら強調してもしすぎることはない。

本ゼミは、国際法の理解を深めることを通して、国際法が身近の法であることを感じてもらうと同時に、国際社会の様々な事象について分析できる視点を養うことを目的とする。

‘国内管轄事項’である人権保護への取り組み、国際協力が求められる地球環境問題、新たな脅威であるテロとの戦い、「戦場にも慈悲あり」の武力紛争法など、様々な限界を抱えながらも地球規模の問題の解決に取り組む国際法の魅力を感じてもらえればと思う。

2. 指導要領

★ 3 年次 国際法の重要判例、論文、時事問題について、グループ報告、議論を行う。

昨年度は、「コソヴォ独立の合法性」「ヘイトスピーチと国際人権法」「欧州人権裁判所と信教の自由」「国際刑事裁判所と個人の処罰」「ロヒンギャ難民問題」「世界貿易機関と輸出制限」「武力紛争法と対テロ戦争」「世界保健機関と COVID-19」について、テーマ別に報告(1 グループ 4 人)を行なった。

今年度は、Vaughan Lowe, International Law: A Very Short Introduction (Oxford Univ Pr, 2016) の輪読を行なった。

その他、自ゼミ・他ゼミ対抗ディベート、国際法模擬裁判を実施する予定である。

★ 4 年次 卒業論文のテーマ策定、報告、作成指導

※前期は 3・4 年合同ゼミ、後期は各回の内容で合同、3・4 年別があります。

3. 指導テキスト及び参考書

論文、判例、英語文献を履修者の興味・関心に応じて選定し、配布する。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

下記の内容を記載した志望理由書を教員宛(chohakuichi@res.otaru-uc.ac.jp)に提出すること。

提出期限：10 月 27 日(水)

- ① 自己紹介
- ② 本ゼミを志望した理由(400 字程度)
- ③ 国際的な時事問題のなかで最も関心があるもの及びそれに対するあなたの意見(1000 字程度)
- ④ 大学生活で頑張ったこと、頑張っていること

5. 面接・テスト等の日時・場所

志望理由書で選考する予定だが、希望人数によっては面接を実施することがある。面接を実施する場合には希望者に個別にメールで連絡する。

★ オープンゼミ：10 月 7 日(木) 5 号館 370 教室 10 月 14 日(木) 3 号館 213 教室

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

ゼミ学習は通常の講義とは異なり、学生が「主役」となって切磋琢磨して授業を作っていく場であり、教員はあくまでもコーディネーターであると考えている。

私自身の大学時代での一番の思い出が「国際法ゼミに参加し、ゼミの先生や仲間に出会えたこと」であるように、ゼミ生にもそのような有意義な時間を提供できるように努めたい。「楽しくなければゼミじゃない」をモットーとしているが、それは食事会、ゼミ旅行などのゼミイベントからの「遊びによる楽しさ」だけを意味しない。ゼミでの学び、議論を通して、「知的好奇心を刺激される楽しさ」を味わってほしい。

真面目にゼミ活動に取り組む人の応募を期待する。

教 員 名 大 津 晶 (社会情報学科)

1. 研究主題

社会工学／都市計画／地域経営／都市空間解析／都市のOR

2. 指導要領

◆2020 年度および 2021 年度は原則オンライン (Zoom 等) とときどき対面で実施しています (3 年生は集合 / 4 年生は個別)。対面授業の全面再開後も、オンラインツールを積極的に活用し、効率的な研究活動を行います。

◆3 年生: 都市・地域に関する問題意識を深め、知的技法の向上を目指します (毎週木曜午後に 3 時間程度)

①文献・資料学習: 世界の都市計画に関連する新たな話題を取り扱った文献や資料を用いて学習します。

【2021】橋本俊詔(2021):「日本の構造～50の統計データで読む国のかたち」, 講談社。

【2020】SideWalkLab(2019):「Toronto Tomorrow | Master Innovation and Development Plan」

②重点プロジェクト: 学外の機関と連携して実践的なプロジェクトに取り組みます。

【2021】小樽みなとまちづくりにおける交流拠点整備ならびにエリアマネジメントのためのケース分析

【2020】仁木町における地域経済循環分析ならびにワイン関連産業の振興政策を立案し「地方創生政策アイデアコンテスト 2020」に参加 (北海道経済産業局長賞受賞)

【2019】観光庁委託事業「未来型観光人材発見プロジェクト」に参加

【2018】小樽駅前第一ビル再開発準備組合等と連携して「小樽駅周辺地区の利用状況および整備方針に関する市民意識分析」や未来創造高校と連携して「高校生によるまちづくりワークショップ」を実施

③ゼミ間交流／インゼミ: 他のゼミや他大学の学生と交流し、異なる価値観や複眼的な視点を学びます

・ディベート大会 (4 回) を通じて論理的な思考力や議論のスキルを身につけます

・学内外の他のゼミ等と合同で活動します (2021 年度後期～2022 年度は猪口ゼミと合同で帯広市大空地区のまちづくり調査およびコミュニティ形成支援を行う予定)。

◆4 年生: 卒業研究もしくは重点プロジェクトに取り組みます (毎週火曜午後に個別で 30 分 / 人程度)

①卒業研究 (基幹テーマ): ゼミとして継続的に取り組んでいる基幹的な研究テーマに複数名で取り組みます
⇒2021 年度は①三次元交通網実装のための空間構造 (3 名), ②観光行動とコンテンツ消費 (3 名)

②卒業研究 (挑戦テーマ): 都市計画・地域科学・社会工学に関連する先端的なテーマに個人で取り組みます
⇒2021 年度の挑戦テーマは①スポーツの包摂性, ②アーバンテックと人間性

③重点プロジェクトの企画・管理: 当該年度のゼミ重点プロジェクトの企画・運営を行い実績報告書 (≡卒業論文) をまとめます ⇒2021 年度は「小樽みなとまちづくりにおける交流拠点整備ならびにエリアマネジメントのためのケース分析」

3. 指導テキスト及び参考書

事前に定めません。活動内容や研究テーマ、学生の予備知識に応じて指示します。

4. 選考の方法 (面接・テスト等)

エントリーフォーム (<https://forms.gle/DFLCtystupvu7p9Q8>) を記載して提出してください。



5. 面接・テスト等の日時・場所

原則としてエントリーフォームで提出された資料を基に受け入れの可否を判定します (特に志望理由と小論文)。必要がある場合もしくは本人が希望する場合のみ面接を実施します (対面 NG の場合は Zoom 等)。提出期限は設けませんが、11 月 1 日以降順次内定を出し、内定者が 12 名 (うち社会情報学科 6 名以上) に達した時点で募集を終了します。大学全体の日程やルールが変更された場合はそれらに従い、詳細は manaba で連絡します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

○都市計画やまちづくりは学際的・総合的な学問分野です。所属学科に関係なく、大津ゼミの研究テーマに関心がある学生は応募を検討してみることを勧めます (これまでほぼ毎年度すべての学科の学生がいました)。

○「都市計画」に関する事前の専門知識は不要です。むしろ現代の都市・地域や社会が直面している課題に幅広く関心を持っている学生を歓迎します。また、勉強や研究だけでなく、花見、ゼミ間交流、合宿 (インゼミ)、ゼミ同窓会、卒業旅行など、年間を通じて種々のイベントがあるので、大学生生活の後半 2 年間はゼミ活動を優先して取り組む意欲が高く、協調性と主体性を持った学生が向いているでしょう。

○ゼミ活動の中間報告会を 10 月 16 日 (土) に実施予定です。中間報告会の見学要領や後日閲覧するための動画その他オープンゼミの情報などゼミ募集に関する連絡は随時 manaba に掲示します。

○「大津ゼミは過剰に厳しい / ゼミの時間が長い」や「サークルやバイトができない」などという誤った情報が広ま

っているようですが、これはいわゆるフェイクニュースです。オープンゼミなどの機会を利用して現役のゼミ生に話を直接聞くなど情報収集し、事前に自分の目でしっかりと確認することを勧めます。

○また近年、上級生が面接を実施し所属の可否に関与するゼミが増えているようですが、大津ゼミではそのようなことはしません。先輩の機嫌を取ったり顔色をうかがったりするような無意味な準備はいっさい不要です。

【よくある質問と回答】

「知っている先輩や同期の希望者に知り合いが居ませんが大丈夫ですか？」

→ 都市の本質は多様性です。大津ゼミは同質集団を目指していないので、むしろその方が望ましいとも言えます。

「何が評価されるのですか？」

→ 現時点の知識の量や成績はあまり関係ありません。都市や地域に対してどのような関心を持っているか、ゼミ活動全体のパフォーマンスを高めることができるか、それらを通じてどれだけ学ぼうとする意欲があるかを評価します。

「面接をする場合、個人とグループのどちらですか？上級生も面接(評価)に同席するのですか？」

→ 基本的には面接はしませんが、学生からの要望があるなどして実施する場合は教員との1対1(対面がNGの場合はオンライン)です。上級生による評価は自分と同じような価値観の後輩を高く評価し結果としてゼミ全体の同質性を高める傾向があるため、多様性を重視する大津ゼミでは不相当と判断し、上級生による面接はいっさい実施しません。

「3年次に取り組む文献や重点プロジェクトは事前に決まっている／自分たちで決めるのですか？」

→ 文献は教員が複数示すものから学生に選んでもらいます。重点プロジェクトも基本的には同様の方針ですが2022年度については現在未定です(学外活動の環境／社会情勢を見つつ判断)。

「社会情報学科以外の学生も所属できますか？」

→ 大津ゼミは多様性を重視しますので歓迎です。実際にほぼ毎年全学科の学生がいます。なお、1次選考では学科を跨いだ応募は認められませんが、2次選考以降は1次募集でどの学科に応募したか関係なく自由に応募できます。

「数学やコンピュータができないとやっていけませんか？」

→ そんなことはありません。ただしいずれも問題解決のための“道具”として便利なので使いこなせる方が良いでしょう。

「部活・バイト・就活が忙しいのですが欠席は何回できますか？」

→ 出席回数で成績を決めているわけではありません。欲張って両立させてください。

「留学したいのですが可能ですか？」

→ 多くのゼミ生が留学や海外インターンシップに参加しています。戦略的/積極的な休学を含め柔軟に対応します。

「大学院に進学したいのですが可能ですか？」

→ もちろん可能です。進学後の指導も可です。他大学への進学も前向きに考えてください。

「大津ゼミは、就職が良い／悪いですか？」

→ 過去の主な進路(下記)と現役ゼミ生の意見を参考にしてください。卒業生は幅広い分野で活躍中です。

卒業後のネットワークが強いのも大津ゼミの特徴です。→大津ゼミ同窓会は毎年東京・札幌それぞれで開催

【大津ゼミ卒業生の主な新卒時進路(内定含む)】

○金融・保険

日本政策金融公庫、商工中金、北海道労働金庫、北洋銀行、北海道銀行、北陸銀行、札幌信用金庫、小樽信用金庫、帯広信用金庫、SMBC日興証券、野村証券、岡三証券、芙蓉総合リース、三菱UFJリース、日本生命、第一生命、東京海上日動、損保ジャパン、三井住友海上火災保険、アフラック、JA共済連

○メーカー・食品

富士通、東芝、日立、京セラ、神戸製鋼、コマツ、TOTO、レンゴー、朝日工業社、ホクエイ、アストラゼネカ、ノバルティスファーマ、日本製紙、コクヨS&T、サントリーフーズ、山崎製パン、明治グループ、六花亭、ボンパドウル、メゾンカイザー

○建設・インフラ・運輸・不動産・住宅

大林組、竹中工務店、前田建設、一条工務店、吉野石膏、JR北海道、三菱地所、北海道電力、日本航空、全日空、エアドゥ、マンダリンオリエンタル東京、ミサワホーム北海道、北ガスジェネックス、三井不動産リアルティ

○商社・小売り・流通・サービス・広告・人材・コンサルティング・旅行観光

双日、ぎよれん、日本紙パルプ商事、ムトウ、イオン北海道、丸ヨ西尾、コープ札幌、ライトオン、フィールズ、北日本広告、大丸藤井、マイナビ、キャリアバンク、ディップ、グローヴエンタテインメント、IDOM、三菱商事エネルギー、内田洋行、リンクアカデミー、アビームコンサルティング、パーソルプロセスアンドテクノロジー、ヴィックスコミュニケーションズ、JTB北海道、星野リゾート、

○放送・通信・IT・ソフトウェア

日本放送協会(NHK)、日本オラクル、NTT東日本、NTTドコモ、ドコモCS北海道、NECソフトウェア、日立ソリューションズ、日立公共システム、メンバーズ、クレスコ、CNS、マーキュリー

○公務員・進学など

札幌市議会議員、小樽市議会議員、国土交通省、経済産業省北海道経済産業局、旭川市、石狩市、苫小牧港管理組合、北海道教育委員会(高校英語教員)、北海道警察、小樽商科大学大学院

教 員 名 加地太一

1. 研究主題

本ゼミの特徴というのは「自由」という言葉に表わされます。好き勝手にやれるということではなく、各自が興味ある問題を自分で発見し、どう独自に取り組む解決するかを主題とし、自由に研究を進めることを指しています。基本的には、身近な問題に対して、最新の情報科学、マネジメントサイエンス（オペレーションズ・リサーチ）の考え、そしてコンピュータの活用などにより問題解決をはかっていきます。これらを通して本ゼミでは論理的問題解決能力、コンピュータ・リテラシー、発表能力をトレーニングしていくこととなります。主に以下のようなテーマなどを扱うでしょう。

- 意思決定手法と経営効率評価分析によるベストな戦略
- 商品企画およびマーケティングにおける科学的な方法論
- データによる真実の解明
- 最適化（オペレーションズ・リサーチ）の考えを用いた問題解決学
- アルゴリズム（プログラミング）の最新デザイン
- コンピュータの利用と応用による新しい世界

また、ゼミのホームページ（<http://www.otaru-uc.ac.jp/~tkaji51/>、あるいは「加地ゼミ」で検索してください）の「加地ゼミの卒論」のところに過去のゼミ生の卒論が示されています。多くの様々な問題にトライしている研究内容を見ることができます。

2. 指導要領

各人が興味あるテーマを選択し、それぞれについて調査発表を行い、ゼミを進めていきます。各個人のテーマ、個性に合わせて指導を行い4年次の卒業研究の完成を目指します。具体的には各自が担当箇所を決め（自分で問題を発見し）、その担当箇所を発表してもらいます（問題解決を進めていく）。

また、自ら調べ、解決していくことが中心となりますので、自分で考え、トライしていく力をもっているか、それを養う気持ちが必要となります。

3. 指導テキスト及び参考書

特になし

4. 選考の方法（面接・テスト等）

面接を行い選考しますので、希望者は「志望書」の提出と「Google フォーム」への登録の2つを同時に行ってください。後日、各自の連絡先に、面接の日時、場所、方法を連絡します。また、今年度は未定な部分がありますので連絡事項など次の場所に掲示しておきますので参照ください。

<http://urx.space/RBSe>

【志望手順1】 まず、面接を希望する方は、下記の要領で「加地ゼミ志望書」を提出してください。

提出方法： E-mail で志望書ファイルを添付して送ること。各自の確認のため、返信メールを送ります（無事送信がなされたか確認してください）。

締切り： 10月28日（木）9:00（午前9時）まで

提出先： kajidesu51★★★

提出先注意：「★★★」を「@gmail.com」に書き換えメールすること。

件名： 学生番号（氏名）@加地ゼミ志望

（例：2020500(山田太郎)@加地ゼミ志望）

志望書ファイル： ワードプロ書き（Word or PDF）とし、A4版1、2枚でまとめること。また、ファイル名を『学生番号（氏名）』とする。すなわち、『2020500(山田太郎)』としてください。

志望書内容： ①学生番号 ②氏名（ふりがな）③学科 ④E-mail（連絡がすぐ取れるメール）⑤志望ゼミ（第3希望まで志望順）⑥出身地、出身高校 ⑦部活、サークル、アルバイト等 ⑧面接日における都合の悪い時間（面接の日時参照）⑨志望理由（800字程度とし、自己アピールなども交えながら記すこと）

【志望手順2】 さらに、次の Google フォームに登録願います（10月21日(木)から開設）。また志望書送付直後に登録すること。

<https://forms.gle/unvcUEvFeS8Qzp9q8>

5. 面接・テスト等の日時・場所

日時： 11月1日（月）13:00～18:00

11月2日（火）13:00～18:00（出来る限り2日に行いたい）

上記の時間帯の指定された時間で実施しますので、当日の都合の悪い時間を志望書に記してください。後日、各自の E-mail に指定時間を連絡します。また可能な限り2日（火）に実施したいので2日（火）を空けておいてください。都合の悪い時間は少ない方が助かります。

場所： Zoom 面接、あるいは加地ゼミ室（317教室）

以上、日時、場所の詳細は、各自の連絡先（E-mail）に送られます。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

ゼミ紹介および選考方法、お知らせなどについて次の場所に掲示します。

<http://urx.space/RBSe>

その「初めに見ること（PDF）」を最初に見てください。またオープンゼミの情報は、ここに10月上旬頃から掲示します。

【質問先】 E-mail : kajidesu51★★★

注意：「★★★」を「@gmail.com」に書き換えメールすること。

教 員 名 片 岡 駿

1. 研究主題

私のゼミのテーマは「統計学と機械学習, プログラミング」です。身近な興味のある問題に対して統計学や機械学習の方法を用いて統計分析やシステム構築に取り組んだり, プログラミングを用いて作品制作を行ったりしていきます。データを尊重した統計分析・システム構築の方法やプログラム設計の方法をゼミ活動を通して身に着けることを目的としています。

2. 指導要領

基本的には各自が興味のある身近な問題を研究テーマとし, それぞれのテーマに関して研究・制作を行っていきます。3年生の間は研究や制作に必要な知識を習得することを主な目標としています。3年の前期は統計学や機械学習の基礎をプログラミング(Python, R, Julia 等)を用いた演習形式で学習していきます。3年の後半までに具体的な研究テーマを決定し, 3年後期以降は各自のテーマに必要な知識を学習しながらそれぞれの研究・制作に取り組んでいきます。

3. 指導テキスト及び参考書

適宜指示します。例えば以下のような書籍をこれまで使用しました。

- 「Python 機械学習プログラミング」, S. Raschka 他著, インプレス
- 「ゼロから作る Deep Learning」, 斎藤康毅著, オライリージャパン
- 「時系列データ分析」, 横内大介, 青木義允著, 技術評論社
- 「Python でつくるゲーム開発入門講座」, 廣瀬豪著, ソーテック社
- 「R によるセイバーメトリクス入門」, MaxMarchi 他著, 技術評論社

4. 選考の方法 (面接・テスト等)

- 基本的には個別面接を行います。私のゼミを希望する学生は以下の要領で志望理由書を作成し, 提出してください。志望理由書の提出が無い学生は選考対象になりませんのでご注意ください。提出期限は10月27日(水) 17時とします。
 - 提出先: xskataoka★★★ (星マークの部分は @res.otaru-uc.ac.jp です。)
 - 件 名: 片岡ゼミ志望理由書 (学生氏名)
 - 形 式: ファイル名を「片岡ゼミ志望理由書 (学生氏名)」とし, A4 版 1 ~ 2 ページにまとめること。ファイルの形式は PDF とする。
 - 内 容 :
 - 1 学生番号
 - 2 氏名 (ふりがな)
 - 3 学科
 - 4 連絡が取れる E-mail アドレス
 - 5 出身地, 出身高校等
 - 6 趣味, 特技, 部活・サークル等
 - 7 志望理由
- 第1次選考期間において, 第1志望者が受け入れ予定人数以内であった場合は, 面接は行わず第1志望者全員を内定とします。この場合は第2, 3志望の学生を面接対象とします。
※学科受け入れ人数の関係で志望者が受け入れ予定人数以内の場合でも社会情報学科以外の第1志望学生には面接を行う場合があります。
- 第2次以降の選考において, 志望者が受け入れ予定人数以内であった場合は, 面接は行わず志望者全

員を内定とします。

※学科受け入れ人数の関係で社会情報学科以外の学生には面接を行う場合があります。

5. 面接・テスト等の日時・場所

第1次選考期間（11月1日～11月12日）の間に研究室（1号館318号室）で個別面接を行います。具体的な面接時間帯については志望理由書のメールアドレスに連絡します。また、選考が遠隔となった場合は zoom 等を用いて遠隔で面接を行う予定です。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

ゼミ室にも数台の PC はありますが、プログラミング作業がゼミ活動の中心になるため、ノート PC を所持されている学生の方がゼミ活動に支障なく取り組むことができます。統計学や機械学習、数学、プログラミングに関する基礎知識等はゼミ配属時には求めていませんが、数式の読み取りや PC を用いたプログラミングが必要になるので、数学や PC の使用に対して苦手意識が無いことが望ましいです。また、各自のテーマを自ら調査・研究していく必要があるため、自ら考え、挑戦していく姿勢が必要になります。

教 員 名 木村 泰知

1. 研究主題

木村ゼミでは、社会情報学科の強みである人工知能や情報処理の技術を活かして、大学周辺の問題を解決する活動をしています。例えば、「商大生のための時間割」「小樽商大の魅力を4コマ漫画で伝えるマンガ」「小樽商大の3D マップ/キャンパスビュー」「ドローンによる小樽の撮影」「Vtuber NOI ちゃんによる情報発信」「小樽商大を舞台にした双六ゲームの開発」「就活を支援するキャリアプロジェクト」などがあります。このようなプロジェクトを通して、研究的思考を身につけてもらいます。プロジェクトの詳細は <https://417.works/> に記載されています。

研究では、構造化された機械判読可能なデータ、あるいは、構造化されていないテキストを対象として、データの連結、可視化、自動要約、文章生成などに挑戦しています。最近では、政治情報を対象としたフェイクニュース検出、ファクトチェック、情報抽出などの研究に力を入れており、大学院への進学もサポートしています。

研究は、自然言語処理を軸として、政治学、経済学、社会言語学との境界領域付近を対象としています。

- 異なる自治体の議会会議録のフォーマットを整えるコーパスプロジェクト <http://local-politics.jp/>
- 政治課題を解決する上で適切な情報を提示することを目的としたタスク設計 <https://poliinfo3.net/>
- 小樽市のオープンデータを用いて可視化するプロジェクト <https://otaru-open.city/>

2. 指導要領

3年生は、情報工学や人工知能関連の勉強をしながら、身近な問題を解決するプロジェクトを立ち上げます。自然言語処理に興味のある人は、python のプログラミングを勉強してもらいます。

4年生は、週1回程度、自分の研究テーマの進捗状況を報告してもらいます。また、学生論文賞に必ず提出してもらうことにしています。

3. 指導テキスト及び参考書

1. ゼロから作る Deep Learning 2 —自然言語処理編, 斎藤 康毅 著, 2018.
2. 自然言語処理概論 (ライブラリ情報学コア・テキスト), 黒橋禎夫(著), 柴田知秀(著) サイエンス社, 2016.

4. 選考の方法 (面接・テスト等)

選考方法 応募フォームの内容と面接(5分程度)で決めます。

応募方法 応募フォームから必要事項を記入して応募してください。

応募フォーム <https://forms.gle/rwqweh22QZcK6DNFA>

注意: 事前に Gmail アカウントを取得してください。

応募〆切 10月27日(水)16時まで



5. 面接・テスト等の日時・場所

日時 11月2日(火) 場所 ゼミ室(3号館 417号室) あるいは、zoom による個人面談

面接の時間は、メールでお知らせします。 <http://417.works> <http://minna.ih.otaru-uc.ac.jp> にも掲載します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

木村ゼミは、実現できない良いアイデアより、少し背伸びすれば実現できることを目指しています。ゼミでは、毎週何かしらカタチにして報告してもらい、他のゼミ生からフィードバックをもらい、改善してもらいます。3年生のゼミは、進捗報告をしてもらうだけで時間が過ぎてしまいます。そのため、各プロジェクトの打ち合わせは、ゼミ以外の時間に開催してもらい、作業をしてもらいます。もう一度書きますが、ゼミの時間は進捗報告会なので、ゼミ以外の時間に作業していない人は何もしない時間になってしまいます。頑張っている人は、報告内容を聞きつつ、他のプロジェクトに協力した方が良いということになれば、複数のプロジェクトにかかわることもあります。プロジェクトは、できる限り、学生の能力を活かしたチーム編成にしており、3人ぐらいのチームで、3ヶ月ぐらいで達成することになっています。ゼミ活動に時間をかけても良いと考えている人は、ぜひ、応募してください。また、大学院進学を考えている方は、応募する前に、私に相談した方が良いでしょう。私以外の教員の方が適している場合もありますので、大学院のことをできる限り、説明します。

7. オープンゼミの日時・場所（予定）

オープンゼミは、下記の日時を予定しています。

- ✓ 10月07日(木) 15時～16時
- ✓ 10月14日(木) 15時～16時

場所は、ゼミ室を予定していますが、オンラインになる可能性もあります。
最新情報は、manabaの掲示板に投稿する予定です。

教 員 名 小泉 大城 （社会情報学科）

1. 研究主題

「データ科学研究」

近年の急速な情報技術(IT)の普及にともない、企業や政府、官公庁等の組織活動においてデータを有効に利用することの重要性は高まっています。また、2020年頃に突然起きたコロナ禍に関連する様々なニュースを見聞きして、「世界中で似たようなデータを観測しているはずなのに、なぜ組織や個人など、人々の取る反応や対策が大きく食い違うのか？」と疑問を持った学生も多いのではないのでしょうか。こうした要因のひとつとして、「同じデータを得たとしても、それをどのような観点で分析し、どのような基準で考察するのかによって引き出される結論は変わりうる」ということが挙げられます。こうしたテーマは、近年注目されている「データ科学」という分野でも扱われている、重要で本質的な問題のひとつです。

データ科学とは、統計的な考え方を基礎とし、コンピュータを駆使したデータ分析を行うことで、客観的かつ定量的な知見を見出そうという考え方、および関連するさまざまな方法論のことです。

当ゼミではデータ科学の考え方を通じ、まだ詳細に分析されていない分野やデータ等から新たな知見を見出す能力を身につけ、激動する社会の荒波の中でも存分に活躍可能な人材になることを目標とします。

2. 指導要領

当ゼミでは理論と実践の両方のバランスを重視します。理論とは、いわゆる統計学についての正確な理解に基づく知識のことであり、実践とは、対象としている分野についての幅広い知識と、統計的な分析を行うにあたって、コンピュータを自在に駆使するスキルのことを指します。こうした能力は、数学とプログラミングの両方に深く関わっていますが、文系の一部の大学生の中に、学ばなくてよいものと勘違いしている姿が散見されるのはたいへん残念なことです。

しかし、これらの能力は文系／理系の区別や、データ科学という分野などとは関係なく、社会人として活躍するために不可欠なものではないでしょうか。このような能力を備えた人材になることは、けっして容易ではないかもしれませんが、本質的で高い目標に向けた努力を惜しまず、長期的な視野に立った学習を通じて、社会でたくましく活躍することを目指す学生の参加を歓迎します。

3. 指導テキスト及び参考書

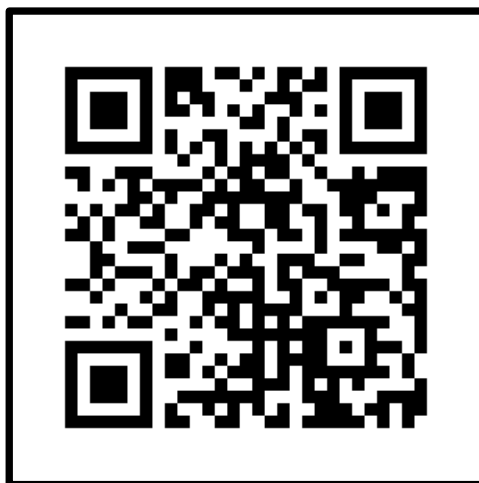
宮川公男 著、「基本統計学（第4版）」、有斐閣、2015年 ほか

4. 選考の方法（面接・テスト等）

エントリーシートと面接による選考を予定しています。

ただし、今年度もコロナ禍の影響で平時の年度とは異なる対応が予想されます。

お手数ですが下記 URL（または下記 QR コード）より Web にアクセスして最新情報の確認をお願いします。



<https://otaru-uc.ac.jp/~dkoizumi/2022/>

5. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- ・突然のコロナ禍で大学においても学ぶことの意義があらためて問われています。ゼミ配属を機会に新しい価値観に触れながら、社会の荒波を乗り越える力を養ってみませんか？
- ・失敗をおそれぬチャレンジ精神あふれる学生の参加を歓迎します（出身学科や性別等は問いません）
- ・わたしの個人的経験にすぎませんが、数学やプログラミングに関する事項に抵抗の少ない学生は、データ科学関係の研究にあたって長期的な伸びしろが大きい気がします。ただしこれは必ずしも関連する科目の過去の試験の点がよいかどうかを問題にしているわけではありません。
- ・当ゼミの分野と関連の深い社会情報学科の配当科目としては、計画数学 I、計画数学 II、統計科学、情報処理 I、情報処理 II、意思決定論 I、意思決定論 II などが挙げられます。
- ・2020 年度および 2021 年度前期のゼミはほとんどをインターネット経由の Zoom で行いました。当初は教員・学生とも不安がありましたが、やってみると意外にあまり問題もなくこなすことができました（案ずるより産むが易し）。
- ・単なるサービスの消費者は、独創的なサービスの生産者（たくましい社会人）にはなれません。したがって、以下に該当する学生（いわゆる「指示待ち族」）は、おそらく当ゼミで得るものは少ないかもしれません：1) 目先の利益にしか興味のない学生，2) 安易で楽な道をよしとする学生，3) 教員に言われたことしか取り組めない学生。
- ・ゼミの見学はいつでも歓迎です。
- ・当ゼミのご真言：「ぐるなぶない」（右下の写真参照）
- ・（どうしてもよいことですが）担当教員は横浜市出身です（道外を含めた札幌市以外の出身者歓迎）。



教 員 名 佐 山 公 一

1. 研究主題

人間の認知過程（情報処理過程）のしくみを調べる．実験室実験や社会調査をおこない，情報処理過程のモデル化をおこなう．Web 技術や IT 技術の発展に伴い，私たちのコミュニケーションが急激に変化してきている．たとえば，ツイッターはその場で起きた出来事を不特定多数の人に即時に発信できるが，過去にこのような情報伝達手段は存在しなかった．佐山ゼミでは，新たに生まれたコミュニケーションのしくみを調べる．次の 4 つのテーマで研究を行う．

●言語の理解：Web 上の文章や広告を人がどのように理解しているか？ ツイッターやフェイスブックなどを介した Web 上でのコミュニケーションと現実のそれとはどこが違うか？

●顔の認知：人が相手の顔から性別，人種，民族，職業，年齢，魅力，個性，性格，感情などを読み取ろうとするとき，読み取ろうとする本人の情報がどのように影響するか？

●国，地域，都市の ブランドイメージ：海外の観光客が Web やガイドブックなどを使って，訪日前に，日本，北海道，小樽，札幌のイメージをどのようにつくっているか？ そうしたイメージは，訪問後にどのように変わるか？

●大学生の職業選択：うまく職業選択のできる大学生はどのように自分に自信を持っているか？ 親の考え方や仕事は大学生の職業選択にどのような影響を与えるか？

2. 指導要領

3 年次：

- (1) 言語，顔，ブランドイメージなどの認知過程の基礎的な知識を身につける．認知心理学の教科書を輪読した後，最新の研究論文を輪読する．発表者は発表内容をパワーポイントファイルにまとめてくる．この過程を通じて，自分の興味に従い，研究すべき卒業論文のテーマを決める．
 - (2) 模擬実験を体験する．有名な心理現象に関する実験を，できあいの実験プログラムを使っておこなう．実験のやり方を練習する．
 - (3) 模擬実験の結果を分析し発表する．実験データの分析のやり方を練習する．データの分析は，統計解析ソフト（SAS，Amos）を使っておこなう．発表者は発表内容をパワーポイントファイルにまとめてくる．
- (1)～(3)を繰り返す．

- (4), (5)は不定期に行う。
- (4) 過去の佐山ゼミ卒業生の卒論を教員が紹介する。
- (5) 卒論に書く実験のテーマと実験の計画を発表する。

4年次：

- (1) 自分で考えたテーマに関する実験をおこなう準備をする。
- (2) テーマと関係のある文献の輪読をする。
- (3) 毎回発表者を決め、卒論の途中経過報告をおこない、お互いに議論しあう。
- (1)～(3)を繰り返す。
- (4) 実際に実験をおこない、データを分析し、卒論にまとめる。

事前学修

ゼミの発表者はその都度発表資料を集め、パワーポイントにまとめてくる必要がある。

事後学修

一人ひとりのゼミの発表内容そのものを、卒論の中に入れ、卒業実験の関連論文とするとともに、実験の分析結果の考察材料とする。

3. 指導テキスト及び参考書

輪読する日本語の教科書：

●図説現代の心理学（3 巻 学習・記憶・思考，4 巻 感覚と感情の世界，2 巻 人間性の発達，6 巻 社会心理学）

●認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎，その他，認知心理学に関する教科書

輪読する研究論文：その都度配布する。

参考書：

- ライフ・シフト-100年時代の人生戦略 リンダ・グラットン，アンドリュー・スコット
- ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図 リンダ グラットン
- 10年後に食える仕事 食えない仕事: AI, ロボット化で変わる職のカタチ 渡邊 正裕

4. 選考の方法(面接・テスト等)

- (1) 社会情報学科の学生を**最優先**して選考します。11/5（金）12 時まで志望理由書を提出してください。おおよそ志望理由書によって決めますので、詳しく正確に書いてください。志望理由書は、ワードで作成し、メールに添付して、sayama@res.otaru-uc.ac.jp まで送ってください。志望理由書をみて書類選考します。
- (2) 候補者に対し面接をおこない最終決定します。

レポートには次の項目を書いてください。

- (1) ゼミに入って何を研究したいか？ 佐山ゼミの研究テーマの中で，どのテーマにどのように興味を持っているか？
- (2) ふだん何に時間を使っているか？ どのようなサークル・クラブ等に入ってどんなことをしているか？ また，どのようなアルバイトをしているか？
- (3) 自分の趣味，性格，特技など。
- (4) その他書きたいこと。

5. 面接・テスト等の日時・場所

11/5（金）17 時に，候補者リストと面接の日時を <https://www.kohichi.net/佐山ゼミ/>に掲示します。面接は 11/9（火）13 時から佐山研究室（4 号館 352）でおこなう予定です（状況によってはズームに変更する可能性があります）。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

オープンゼミ期間中の 10/14（木），10/21（木）の 4 講目 3 年ゼミをズームで行い（ミーティング ID: 856 2050 5501，パスコード: 355908），オープンゼミとします。ぜひおいでください。

言葉の理解，顔の認知，ブランドイメージに興味を持っている人，とくに，将来，人間の情報処理の研究者になってやろうという人を歓迎します。不明な点があれば sayama@res.otaru-uc.ac.jp までメール下さい。

教 員 名 沼澤 政信

1. 研究主題

私は、人工知能 (AI) やソフトウェア、ネットワーク分野の基礎的研究を行っています。特に、最近気になるものは、教育に関する情報メディアやアプリに関する AI、Web コミュニケーションや Web インテリジェンスにおける AI です。例えば、教育や学習に役立つ効率的なアプリやゲームなどはどのようなものもののでしょうか？ Web から自分の必要な情報を効率的かつ正確に抽出するにはどうしたらよいのでしょうか？ Twitter やブログ情報の有効活用方法はないのでしょうか？ 街を活性化するような地域情報推薦システムは作れないのでしょうか？

ゼミ生の研究テーマとしては、これらの分野の研究を希望することはもちろん、これら以外にも興味があり、各自が責任を持ち最後まで積極的に取り組むことが可能であれば、他の分野のテーマでも結構です。

2. 指導要領

「これって、どんな状況？」、「こういう解決方法は効果あるかなあ？」、「こんなものがあったら少し便利なんじゃないかなあ？」、「あんなものがあれば少しは楽ができるのでは？」という気持ちをきっかけに各々のテーマを決めて、自ら研究対象について調査してデータを収集し、それらを分析して、そこから何がわかったのかを明らかにしてください。

2 年次：今後のゼミ活動のための準備（クラウドストレージの登録・設定，Facebook の登録・設定，ディベート練習），卒論発表会 & 卒業生追いコンへの参加，春休み課題の提出などを行います。

3 年次：合同ゼミ（ディベート）への参加。

卒論作成に向けて、（就活前に卒論の大半を終えるぞ！という意気込みで）各個人（各グループ），研究テーマを決めて学習，調査，分析，プレゼンテーションを行います。卒論を完成させて，3 年次で卒論発表を実施することも可能です。

4 年次：卒論の完成・卒論発表，後輩指導，ゼミ広報などを行います。

3. 指導テキスト及び参考書

研究テーマを探す段階：各人が学会誌，論文誌，テレビ番組，雑誌，Web などを見たり読んだりして，おもしろいテーマを見つけ出しましょう。

研究テーマ決定後の段階：信頼性のある学会誌，論文誌などを参考にしましょう。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

面接を Zoom にて行います。面接の参考資料としますので、

- 所属学科，学生番号，名前（必ず読み仮名を記述してください），
- メールアドレス（ほとんど毎日確認するメルアドを教えてください。
面接スケジュール，Zoom 面接の ID，パスワード，選考結果を連絡予定です），
- 志望ゼミ（第一志望ゼミ，第二志望ゼミ，第三志望ゼミ），
- 所属する部活名，サークル名
- 下記の面接予定日時について都合が悪い場合は，その旨およびその理由。

を 2021 年 10 月 27 日（水曜） 22:00 までに電子メールで宛先 numazawa@res.otaru-uc.ac.jp へ送付してください。なお，志望者数が多い場合は，第三志望者を面接せずに落選とすることもありますので，ご了承ください。

5. 面接・テスト等の日時・場所

◆ **日時：2021 年 11 月 2 日（火曜） 14:30 ～ ※ Zoom を利用します。**

- ・ 上記の日時に面接できない方は事前にメール（宛先は前述）にて連絡ください。
- ・ また，上記面接日時の変更や，新型コロナ感染状況や志望者数によっては対面の面接に切り替える可能性も多少あります。そのような事態になった場合は，皆さんから教えていただいたメールアドレス宛に連絡いたします。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- ・ 来年度は対面で皆さんとゼミ活動や懇親会ができることを，ゼミ生ともども心より願っています。今年度の大学活動は制約があり，学生も教職員も少々つらいことがあります，来年度には改善していることを信じて，お互いがんばりましょう！！
- ・ 「こんなものがあつたら少し便利なんだけどなあ」，「あんなものがあれば少し楽できるのになあ」ということを考えて，「それを，ぜひ実現させたい！」と思う人たちを歓迎します。皆さんの様々な視点でたくさんのアイデアを出してください。
- ・ 進学を考えている人も歓迎します。情報系の興味深いテーマに出会い，小樽商大から北海道大学をはじめとする他大学の大学院へ進学して，修士号を取得して理系大手企業へ就職することも夢ではありません。理系大手企業への就職者のほとんどは大学院修了者ですので，理系企業への就職を希望するあなたは検討してみてください！

以上

1. 研究主題

『人間中心設計に基づくサービスデザインに関する研究』が研究室のテーマです。人間中心設計とは、サービスに関わる人間（利用者を含む）や組織を探索することによって、新しいアイデアを構想し、サービスを詳細に設計してゆく方法全般を意味します。実際には、新しいサービスを構想するプロセス、具体的なサービスのユーザ要求事項を導くプロセス、サービスのタッチポイントを設計するプロセス、サービスの妥当性を確認するプロセスなどがあります。

当研究室では、実際のサービスを題材にして、これらのプロセスを学習します。現在は、学内サービス、観光サービス、公共サービスなどを題材にして、サービス設計を演習しています。

一方、人間中心設計は、もの作りと並行して、人間科学の知識が必須になります。ゼミを通じて、心理学や社会学に基づいた調査法・評価法の習得を行います。

2. 指導要領

まず、3年生の段階で人間中心設計に関する基礎的な知識・技法を学習します。3年次までには、実験あるいは調査を行いながら基本的な知識の習得を目指します。理論の学習と並行して、演習を実施しています。また、先輩が実施しているプロジェクトに参加しながら、調査研究の実際に体験してもらう場合もあります。

4年次には、各自で独立したテーマを設定して、大学院生などの指導の下で、1年をかけて研究プロジェクトを遂行します。卒論を希望する学生は、これを論文としてまとめます。

3. 指導テキスト及び参考書

毎年、購読するテキストは異なります。

4. 選考の方法(面接・テスト等)

ネットワークを利用したグループ面接によって選考します。

5. 面接・テスト等の日時・場所

面接の開催日を manaba にて掲示します。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

大学生活の結果、何か具体的に『かたち』を残したい、何かを創りたいという想いがある人にとっては、有効なゼミになるでしょう。この皆さんの「想い」を基本に、研究、就職とつなげてゆきます。理論の学習だけでなく、調査や実験を通じて、実際に身体を動かして情報を入手し、具体的なデータを基に、洞察、構想するという行動パターンを身につけることになります。

人間中心設計は、奥深い設計理論です。より具体的な設計の力を身につけるには、より多くの時間を要します。大学院での学習を望む人は事前に相談してください。

また、様々な業界からのお客様が来られるので、可能な限り、社会人との接点を持つようにします。そのための作法も体得できます。

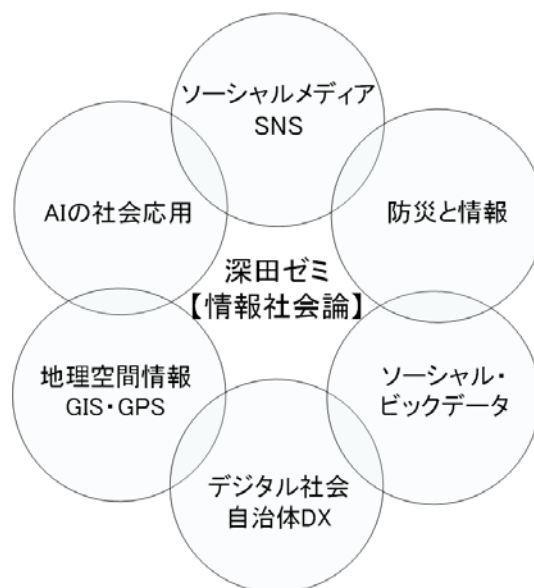
尚、当ゼミではネットワークを介した、様々な試みを行っています。そのため、自宅でのネットワーク環境及び自分所有のパソコンは必須ですので、注意してください。

1. 研究主題

当ゼミのテーマは「情報社会論」です。「情報と社会」に関する諸課題を調査・分析し、課題解決に向けた方策を考える能力を養うことを目的とします。

また、学生自らが調査・分析・発表を行う過程で、個々人の主体性や計画力・実行力を養うことを目指します。

研究対象として具体的なキーワードをあげるとすれば、「ソーシャルメディア」、「防災と情報」、「AIの社会応用」、「ソーシャル・ビックデータ」、「地理情報システム（GIS）」を用いた地域分析、「自治体DX」などです。



2. 指導要領

3年次：社会的な課題に関する調査・分析を実施するために必要となる知識やスキルを学ぶ。

4年次：各自が決めた卒業研究テーマについて、調査・分析を行い、進捗状況を報告・発表する。

※3年ゼミの内容（予定）：複数のテキストを輪読し、卒業論文で必要となる基礎的知識を学ぶ。

3. 指導テキスト及び参考書

下記の書籍などの中から、3年ゼミ生と相談して輪読する複数のテキストを決めます。

- ・辻 泉ほか：『メディア社会論』有斐閣ストゥディア，2018年。
- ・藤代 裕之：『ソーシャルメディア論（改訂版）』青弓社，2019年
- ・橋本 雄一ほか：『GISと地理空間情報（五訂版）』古今書院，2019年
- ・辻 義人：『Excelによるアンケート調査の第一歩』ナカニシヤ出版，2014年。
- ・大谷信介ほか：『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房，2013年。
- ・松尾 豊：『人工知能は人間を超えるか—ディープラーニングの先にあるもの』KADOKAWA，2015年

4. 選考の方法（面接・テスト等）

「面接」を行います。面接の資料として、下記の内容を記載した志望理由書を作成し、提出して下さい。

- 提出方法：Word等で作成した志望理由書の電子ファイルをE-mailに添付して送付すること。
 - 締 切 り：志望理由書の提出締め切り 10月30日（土曜）17時まで（厳守）
 - 送 付 先：fukada@res.otaru-uc.ac.jp 宛て、E-mailで送付すること
 - 件 名：E-mailの件名【深田ゼミ志望理由書の送付 氏名〇〇〇〇 学籍番号〇〇〇〇】とすること。
 - 形 式：志望理由書は、Word等を用いて、A4版1～2ページ程度にまとめること。
- 志望理由書のファイル名は、「深田ゼミ志望理由書（学生氏名 学籍番号）」とすること。

- 志望理由書に記載する内容：

- 1) 学生番号，2) 氏名（ふりがな），3) 学科，4) 性別，5) 出身高校，6) 志望理由（400字程度），
- 7) 所属する部活・サークル等，8) E-mailアドレス（確実に連絡が取ることができるアドレス），
- 9) 志望ゼミ名（第1，第2，第3希望の順で志望ゼミ名を明記），10) 自己アピール（ゼミで何をテーマにしたいか・希望進路（就職，大学院進学）・自分の趣味や特技などの内容で400字程度）

5. 面接・テスト等の日時・場所

【日時】11月4日（木） に行う予定（時間帯：2 講目～6 講目を予定）。面接の順番の決め方（面接時間の指定）などの詳細は、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」、またはオープンゼミの機会に説明する（オープンゼミは、10/7 と 10/14 にオンライン開催の予定）。なお、予定している面接日程が変更になる場合は別途連絡しますので、ゼミ所属選考期間中は、manaba を注意深く見て下さい。

【場所】ZOOM を用いた「オンラインでの個別面接」を行う予定。面接時の ZOOM の URL など、詳細は、別途、manaba で連絡する。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

当ゼミは、学生の自主性、積極性、協調性を重視します。また、当ゼミの特徴として、（学外活動が可能となった状況になれば）通常の研究指導の時間帯以外でも、学外でのフィールドワーク（例えば、関係者へのヒヤリングや調査活動支援など）といった活動などを行うため、これらに対して積極的に参加してほしいと考えています。そのため、これらのゼミ活動全般に対して、時間的にも精神的にも、誠実に取り組むことができない学生には不向きです。

以上の点を十分に検討し、オープンゼミに参加して、応募するかどうかを決めて下さい。また、ゼミに関する質問等があれば、教員にメールで連絡して下さい。

○深田研究室：1 号館 4 3 3 研究室

教員メールアドレス（E-mail）：fukada@res.otaru-uc.ac.jp

教 員 名 三 浦 克 宜

1. 研究主題

システム工学や知能情報学を基に、学生自身が持つ課題や疑問を解決する方式や情報システムを考える訓練をします。本ゼミは、「とりあえずモノを作ってみる（プログラミング）」を基本スタイルとして活動しますので、基礎的なプログラミング力を鍛える訓練もします。私自身も基礎理論や方式、枠組みなどを提案するだけでなく、実際に動くモノ（情報システム）を開発することを心がけています。私の研究では、クラウドサービス、仮想化技術、等価変換（ET）理論、多目的遺伝的アルゴリズム、論理プログラミング、プログラム合成、情報システム開発などがキーワードになります。最近の私の研究では、ET 型プログラム合成を発展させる新たな枠組みを提案しました。

2. 指導要領

3 年次：研究活動の基礎スキルを養い、各自の興味のある研究分野を明確にする

- 研究と勉強の違いや学士論文（卒論）の本質を知るための勉強会を行います。
- アイデアを提案する訓練としてゲーム考案会を行います。
（例年、トランプを使った新しいゲームを考えてもらっています。）
- プログラミングの基礎力を高めるための勉強会を行います。
（相談の上、プログラミング言語を決めています。これまでの言語：PHP, JavaScript, Python, ET)
- 各自が何に興味をもっているのかを知るためのディスカッションを行います。
（例年、このディスカッションで卒論の方向が決まります。）

4 年次：研究テーマを決めて、深い知識を身につける

- 3 年次でのディスカッションをもとに 研究テーマ（学士論文の内容）を決めます。
- 研究テーマについて調査や分析を行い、学士論文を作り上げます。
（ゼミでは、各自が作成した進捗報告資料をもとにディスカッションを行います。）

3. 指導テキスト及び参考書

別途、必要に応じて示します。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

10 分程度の面接を実施して、面接内容と志望理由をもとに選考します。面接を希望する学生は、三浦まで下記の内容を E メールで送ってください。

※ 宛先：k-miura(AT)res.otaru-uc.ac.jp (AT)を@に置き換えてください！

※ 締切：10 月 28 日（木曜日）12:00

※ E メールの内容：

件名：氏名@三浦ゼミ志望

内容：1. 学籍番号、氏名（ふりがな）

2. 所属学科

3. 返信可能な E メールアドレス

4. 志望理由（800 文字程度） ※ Word などを書いて、添付ファイルで送ってください。

5. 面接時間（第1希望，第2希望） ※ 混み合うと希望に添えないかもしれません。

5. 面接・テスト等の日時・場所

日時：11月8日（月曜日）10:30--18:00 ※ この時間帯の中で面接可能な時間を回答してください。

場所：ウェブ会議方式（Zoom）

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

本ゼミは、学生が主体となり研究テーマを見つけ出しますので、繰り返しのディスカッションをもとに研究テーマが決まります。そのため会話に積極的な方や話し好きな方は大歓迎です。プログラミングに興味がある方も大歓迎です。Eメールでご連絡いただければ、可能な限り、ゼミ生の研究内容をご紹介します。

1. 研究主題

- インターネットを用いたコミュニケーションに関する研究
- コンピュータネットワークに関する研究
- プログラミング言語とその処理系
- モノのインターネット (IoT) に関する基礎研究
- ネットワークセキュリティ関連分野

その他、関連するテーマであれば、ある程度の希望は採り入れる。

2. 指導要領

プレゼミ

本や論文を読み文章にまとめて他人に説明し、適切な質疑応答ができることがゼミに参加する上での必要事項である。また、説明のためにプレゼンテーションツールを使いこなすことも必須であり、ゼミ所属が決定した時点から3年次になるまでにこれらを4回程度プレゼミとして行なう。

3 年次：テキストの輪読と演習

ゼミ生の興味に沿ったアルゴリズム系やプログラミング系のテキストを使って輪講と演習を行う。最近選択した言語等は C++, OCaml (関数型言語), Java, モデリング言語 Alloy, LISP の 1 つである scheme, python を使った Deep Learning である。現在の3年生はリモートで python のプログラミングを学んでいる。少人数の場合、Raspberry Pi 等のハードウェアを使った実習も考えている。

4 年次：テーマに沿った卒業論文の作成指導

学生のモチベーションを維持するため、基本的に卒業論文のテーマは学生自身で決めることとしている。そのため、オリジナリティを持った主張のできるタネを沢山持ってきて、そこから卒業論文に最も相応しいものを選択・指導していくので、沢山のタネを持って来るべく社会や技術に関心を常に向けておく必要がある。

3. 指導テキスト及び参考書

適宜指示する。尚、プレゼミの初回の課題はゼミ創設以来、「理科系の作文技術(木下是雄著、中公新書 624)を読んで、そこに書かれた技術を使って一章から八章を A4 の紙一枚に内容を纏めて口頭で発表すること。自分の文章のどの部分にどの技術を使ったかも説明できるようにしておくこと。」である。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

所属学科、氏名、学生番号と志望理由、情報、ソフトウェアに関する科目の履修状況とその成績の自己評価、研究したいテーマ等を具体的に記述した A4 版の用紙 1 枚の「申込書」を面接時に提出のこと。

5. 面接・テスト等の日時・場所

11 月 4 日(木曜)14:30 よりゼミ室(209D)にて行なう予定である。危機対策本部からの指示により変更が生じた場合は、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」の掲示板で周知する。人数が少ない場合、1次選考期間中に追加で面接を行う場合もあるので manaba を確認のこと。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- 原則として社会情報学科所属であること
- 原則として情報、ソフトウェアに関する科目を履修中、または履修済みであること
- 部活、サークル、アルバイト等で勉学を疎にすることがないこと
- 昼間コース社会情報学科 研究指導募集手続を参照のこと

担当教員は北大時代にインターネットを北海道に引いてきた当事者なので、日本のインターネットの第一世代関係者に知己が多い。それ以前はプログラミング言語や OS 関連の研究を行っていたので、その方面の知識もそれなりにある。

1. 研究主題

若くて元気な 20 代前半の学生の皆さんが、これまであまり健康について考えることは無かったのではないのでしょうか。昨年の年明け早々から始まった世界中に蔓延した感染症は、そのような若い世代へも健康への関心を否応なく考えさせられた出来事となりました。健康であることは、ただ病気ではないということではありません。一昔前までは、病気は早期発見、早期治療が重要視されてきました。しかし、これからは病気の予防がより一層重要になってきます。予防には、食事と運動、適切な休養が大切です。そしてそれも若い頃からの生活習慣が、年をとってからも大切なことが近年、明らかになってきました。健康増進、生活の質(QOL)、そして青年期は学生でありながら一人の社会人として自立する中で、質・量ともに高度なストレスが加わる社会環境にさらされ、精神障害やメタボリックシンドロームなど様々な要因により生活習慣病をより発症しやすい状況であると思われます。将来も健康であることは全ての活動において基本となります。ここでは自身や身近な人の生活習慣から、ゼミ室内で可能な範囲で調査・実験を行い健康について研究するものとします。

2. 指導要領

3 年次は、ゼミで必要となる基本的なスキルや図書活用法、関連する文献や興味のある論文などを探して読みすすめたりしながら、基本的には毎週、報告や発表を行います。4 年次では早めに研究テーマを決め進められるように準備をし、テーマに沿ったゼミ活動を行います。

3. 指導テキスト及び参考書

3 年次にゼミ所属が決定次第、お知らせします。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

申込期間中に manaba コース「2022 年度ゼミ選考」にてお知らせします。

5. 面接・テスト等の日時・場所

manaba コース「2022 年度ゼミ選考」にてお知らせします。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

当ゼミ希望者は「・・・でも」「・・・しか」学生ですと、ゼミの時間が無駄に忙しく感じるだけの時間になるかもしれません。ゼミは学生が主役ですので、自主的に積極的に取り組むことのできる人だと、大学生活の 2 年間は充実した学生生活になるでしょう。

注意事項：ゼミ希望者が 1 名(性別問わず)の場合は、昨今の様々な事情から当ゼミは開講しません。

教 員 名 片 山 昇

1. 研究主題

以下のテーマに関して、「実験」を中心とした生態学的研究を実施します；

- ①人為的攪乱に対する山菜の応答
- ②水性動物による溶存有機物の利用
- ③両生類幼生の表現型可塑性
- ④外来植物の迅速な進化と生態系プロセス
- ⑤植物の被食防衛
- ⑥昆虫と植物の相利共生

2. 指導要領

本ゼミでは、生態学の学術的な問いに対して仮説を立て、その仮説を主に実験で検証します。得られた結果は、卒論としてまとめてもらいます。そのために必要な、(1)仮説の立案、(2)実験デザインの構築、(3)データの取得、(4)データの取りまとめ、(5)結果の解釈、などを指導します。基本的に実験テーマは上記の研究主題の中から選んでもらいますが、受講者が興味を持ったテーマが他にあればそのテーマを採り入れることも可能です。どちらの場合でも、実験テーマは各自で持ってもらい、主体的に実験に取り組んでもらうことになります。また必要に応じて、他大学の研究室と共同研究を実施する場合があります。

実験を開始してからは、進捗状況について教員と随時(頻繁に)相談しながら実験を行ってもらいます。加えて、3ヶ月に1度、全ゼミ生を交えた中間報告会を実施し、4年次の1月には卒論発表会を実施する予定です。卒論の主要データは、学会で報告できるくらいにまでしてもらいたいと考えています。また、研究を遂行するには他の研究事例を学ぶことも欠かせませんので、月に1度、学術論文(基本的に英語の原著論文)の勉強会を行います。

3. 指導テキスト及び参考書

- ・M. ベゴンほか「生態学 個体・個体群・群集の科学」(京都大学出版会)
- ・酒井聡樹「これから論文を書く若者のために」(共立出版)
- ・市原清志「バイオサイエンスの統計学」(南江堂)

4. 選考の方法(面接・テスト等)

面接にて選考します。面接時に志望動機や研究テーマについて質問する予定です。オープンゼミは実施しませんが、質問や研究室訪問などは随時受け付けます。とりあえず話が聞きたい人も歓迎します。

5. 面接・テスト等の日時・場所

11/1~12 の間で、生物学研究室で面接を実施します。面接の日時を調整しますので、受講希望者は 10/27 までにメール(n-kata@res.otaru-uc.ac.jp)で連絡して下さい。記載内容に変更が生じた場合、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」の掲示板でお知らせします。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

上記の研究主題で扱う生物の多くは、4~8 月にかけて出現します。この時期を逃すとデータが取れないので、生物の出現に合わせて実験計画を練ることになります。したがって、履修上のゼミの開講時間外にも実験してもらうことになりますし、土日にも実験を行うこともあります。場合によっては、調査で課外施設に宿泊することもあるかもしれませんが(諸経費は研究費で負担します)。受講希望者はこれらのことを十分に理解しておいて下さい。

就職活動で 4~8 月に実験できない人は、室内飼育できる生物(主に昆虫や植物)を対象にした実験を、8 月以降してもらいます。いずれにせよ、本ゼミでは生物を扱うので、生物の世話ができない人には受講を勧めません。

教 員 名 杉 山 成（保健管理センター）

1. 研究主題

本ゼミではピアサポート（学生が学生に対して行う、種々な支援活動）の計画と実行、そして、社会心理学・臨床心理学についての輪読と討論を行います。これらを通して、自分、仕事、そして、社会の間の幸福な関係について一緒に考えてみたいと思います。

2. 指導要領

3 年次：

対人関係や集団過程の心理を対象とする「社会心理学」と心の健康・不健康の理解と支援を目的とする「臨床心理学」についての学習、そして、それに基づいたピアサポートの実践をゼミの両輪として進めていきます。

- ① 社会心理学・臨床心理学についてのテキストを輪読し、それに基づいたパーソナルワークおよびグループワークを行い、自分自身や人間観、社会観についての考察を行います。
- ② ピアサポート（大学での居場所づくりや障がいのある学生への支援）や心理学ワークショップを開催します。そして、そのために必要な対人援助（ピアカウンセリング）やプレゼンテーションのスキルを身につけます。
- ③ 北海道ピア・サポートコンソーシアムの活動に参加し、他大学の学生との交流・協働を行います。

4 年次：

卒業論文の作成とピアサポート活動の継続がメインとなります。卒業論文において実証データに基づいた検証を行う際には、心理学研究法や PC を用いたデータ解析法についての学習を行います。

3. 指導テキスト及び参考書（予定）

テキストについては開講時に指示します。

参考書：白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方・第二版』 ミネルヴァ書房。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由書と面接によって選考を行います。志望理由書では、①学籍番号、②氏名、③所属学科、④メールアドレス、⑤本ゼミを志望した理由、⑥本ゼミで取り組みたいテーマ、⑦これまでの学生生活で頑張ってきたこと、について記入し、11 月 5 日（金）までに杉山までメールで提出してください（宛先：sugiyama@res.otaru-uc.ac.jp）。形式・枚数は自由です。

5. 面接・テスト等の日時・場所

11 月 9 日（火）13 時から 403 ゼミ室での対面面接（または Zoom での遠隔面接）を行います。どうしても時間の都合がつかない場合には別の日程を設定しますので、事前にメールで申し出てください。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

次のような諸問題に関心があれば、2 年間のゼミ活動のなかで、自分なりの答えを見つけることができるのではないかと考えます。

- ・ 人間らしく生きるとはということか
- ・ 自分を受け入れるにはどうしたらよいか
- ・ 仕事を通して成長していくにはどうしたらよいか
- ・ 社会のなかの居場所はどのように作っていけばよいのか
- ・ 他者との信頼関係はどのようにしたら得られるか

なお、本ゼミにおいては時間割上の時間（木曜 4・5 講）以外の昼休みや空きコマ時間に活動することが多くなりますので、その点についてあらかじめご了承ください。2 年生についても、所属決定後、年度内からピアサポートに参加していただくことを予定しています。

7. オープンゼミの日時・場所（予定） ※夜間主コースは記載不要

オープンゼミの開催・合同説明会への参加については、manaba コース「2022 年度ゼミ選考」にてお知らせいたします。また、ピアサポートルーム開室時には杉山ゼミの3年生がピアサポーターとして常駐していますので、そちらでゼミについての詳しい相談をすることが可能です。

教 員 名 須永 将史

1. 研究主題

本ゼミでは、社会学の「質的調査」の各手法を学ぶ。小樽市などの地域社会のあり方を社会学的に考察する。

2. 指導要領

ゼミ内では、大きく分けて4つのことをおこなう。

- (1) 社会調査とは何か、とりわけ質的調査とはなにかについて、社会学が蓄積してきた研究手法を学ぶ。参与観察、フィールドワーク、インタビュー分析、ライフヒストリーなどの手法を理解する。（文献研究）
- (2) 社会学的先行研究を学ぶ。家族社会学・ジェンダー論・都市社会学をはじめとした重要な先行研究を講読し、自分が深めたい社会学的な研究テーマを検討する。（文献研究）
- (3) 実際にフィールドに行き、社会学的調査をおこなう。できれば小樽市内で調査をするのが望ましい。
- (4) 調査した内容に基づき、社会学の手法を使った報告書を執筆する。

3. 指導テキスト及び参考書

堀川三郎，2018，『町並み保存運動の論理と帰結——小樽運河問題の社会学的分析』東京大学出版会。
玉野和志，2008，『実践社会調査入門——今すぐ調査を始めたい人へ』世界思想社
好井裕明・桜井厚，2000，『フィールドワークの経験』せりか書房。
購入等に関しては授業が開始してから具体的に指示する。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望動機や現在の関心などについて、面接をおこなう。

5. 面接・テスト等の日時・場所

応募人数によっては11月1日（月）から11月12日（金）の間のいずれかの日に、オンライン、あるいは316Aゼミ室にておこなう。面接の日時・手段については10月28日のうちにメールにて連絡する。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい。
文献講読・報告の量も多く、調査も負担が多いと思われる。真面目に取り組む学生のみ受講してほしい。
特に文献講読に関しては、読むだけでなく、議論への積極的な参加も要求する。
本を読んで知識をひろげることに根本的に興味のない学生は、履修を勧めない。

1. 研究主題

このゼミのテーマは、サンスクリット語によるインド古典文学作品の研究である。

2. 指導要領

3年次には、主として、初級サンスクリット語の修得をめざす。4年次には、主として、卒業論文作成、サンスクリット語による何らかのインド古典文学作品の日本語訳と考察、を行なう。

3. 指導テキスト及び参考書

サンスクリット語の入門書、英語辞書他、さまざまな文献を用いる。学生は本学・他大学図書館所蔵の文献資料を探索したり、購入したりする努力が必要である。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

10月21日から10月27日までに manaba ゼミ選考アンケートを通じ、本ゼミ履修を申し込む。11月1日から7日までの間に、志望の旨を伝えるメールを担当者（中村史：メールアドレス n-fumi@res.otaru-uc.ac.jp）に送信する。その際下記1から4の内容について、レポート（2000字以上、PDFに変換したもの）を作成、添付して提出する。レポートの内容は、

- 1 志望者のこれまでの古典語体験及び古典文学体験
- 2 このゼミでどのような卒業論文を書きたいか
- 3 これまでに大学でどんなことを学んだか
- 4 卒業後はどのような進路を考えているか

*主に1、2について書き、3、4は補足的に書く。

5. 面接・テスト等の日時・場所

志望者のレポートを読み、志望者から送られて来たメールに返信して、面接等について相談する。4. 欄参照。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

このゼミではサンスクリット語によるインド古典文学作品の研究を行なう。こうした古典語の修得、古典文献の読解には相当な努力を要する。古典語・古典文献を愛し、さらに、強い意志を持つ学生に来てほしい。

教 員 名 西 永 亮

1. 研究主題

20 世紀の社会・政治思想（欧米を中心に）

2. 指導要領

20 世紀とはどのような時代であり，思想的に何が問題にされていたのかという問題意識のもと，重要な思想家のテキストを精確に理解することを目指します．まずは，下記の指導テキストを輪読します．報告者が担当箇所についてレジュメを作成して報告し，それにもとづいて議論を行ないます．

3. 指導テキスト及び参考書

指導テキスト

・レオ・シュトラウス『自然権と歴史』（ちくま学芸文庫）

4. 選考の方法（面接・テスト等）

志望理由と現時点での研究テーマについてのレポート（800 字程度，書式自由，ただし Zoom で画面共有できるもの）にもとづいて，面接を行ないます．

5. 面接・テスト等の日時・場所

面接は Zoom で行ないます．第 1 次志望者に Zoom 情報をメールで伝えます．

日時は 11 月 10 日（水）12:00～を予定しています．

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

・「社会思想史Ⅰ・Ⅱ」及び「現代思想」を履修していること．

・思想史研究におけるテキスト読解は，読み手の深い問題意識を前提にしますが，しかしこのことは，単に読み手の主観的な願望を反映させればいいということを意味しません．書き手である思想家の意図，論理構成，思考プロセスを客観的・体系的に（この意味で科学的に）分析し，前提になっていた問題意識を問い直す，このような姿勢を心がけてください．

教 員 名 高橋 優季

1. 研究主題

ファンタジー小説&映画愛好家あつまれ！

2. 指導要領

来年度、私のゼミではフィリップ・プルマン著 「ライラの冒険」シリーズ3部作の第一部『黄金の羅針盤』を読む予定です。本シリーズは、20世紀末において「ハリー・ポッター」シリーズに比肩しうる現代ファンタジー小説の最高峰として高く評価された作品です。そのなかに描かれる、異世界またパラレル・ワールドと呼ばれる空間で繰り広げられる奇想天外なドラマや驚異の数々が、現実社会にどのようなメッセージを投げかけているのか。今この時代に大学生としてこうしたファンタジー文学に慣れ親しむ意義を各自かんがえながら、魔法と冒険の旅に出かけてみてください♪

3. 指導テキスト及び参考書

フィリップ・プルマン著 大久保寛訳『黄金の羅針盤』（上・下）新潮文庫、2021年

Philip Pullman, *His Dark Materials I: The Golden Compass* (1995)

4. 選考の方法（面接・テスト等）

ゼミ1次選考期間（11月1日～12日）の最終日までに、

- ① このゼミへの志望動機
- ② 上記作品（日本語版で構いません）の感想を、

A4レポート2～3枚程度に収まるくらいの分量で書いて（ワード文書でお願いします）、Eメールに添付の上、yuking-kong@res.otaru-uc.ac.jp までに送ってください。

課題図書の入手が困難な方は、ゼミ室及び図書館から貸し出し可能です。お求めの場合は上記メールまでお問合せください。早い者勝ち、貸出期間限定、返却厳守です。

5. 面接・テスト等の日時・場所

上記選考方法の結果または応募人数によっては面接を実施する可能性もありますが、その場合はmanaba コース「2022年度ゼミ選考」の掲示板からお知らせします。選考のため学力を試すテストなどは実施しません。

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

来年度のゼミ選考は、1次選考期間のみで行います。2次選考は致しません。応募をご検討の方は、早めにご検討されることをお勧めします。

教 員 名 Sumiyo Nishiguchi

1. 研究主題

Linguistics (formal semantics) and Social Choice Theory

2. 指導要領

The central area of study is analyzing language meaning and social choice theory. Currently the daytime seminar consists of two research groups:

- Main group: Thursdays 4-5 periods

During spring vacation, students select and read an introductory book written in English. The seminar starts with students' presentations on the book reviews. Then eventually they conduct studies on their own topic.

- Computer science group: Thursdays 6-7 periods

This is a separate autonomous group of computer scientists studying natural language processing, programming, web design app/video making and so forth.

Members are encouraged to attend the 33rd European Summer School in Logic, Language and Information (ESSLLI) to be held in Ireland, between Aug 8-19, 2022 on their own expense.

Supervisor's HP: <http://www.res.otaru-uc.ac.jp/~nishiguchi/>

Lab members' HP: <https://otarupippi.github.io/july30/hpSecond.html>

3. 指導テキスト及び参考書

- Daniel Altshuler, Terence Parsons and Roger Schwarzschild, *A Course in Semantics*, MIT Press, 2019
- Kenneth Arrow, Amartya Sen and Kotaro Suzumura, *Handbook of Social Choice and Welfare*, Elsevier, 2010.
- Steven Bird, Ewan Klein, and Edward Loper, *Natural Language Processing with Python: Analyzing Text with the Natural Language Toolkit*, O'Reilly, 2009.

4. 選考の方法（面接・テスト等）

Interview on Zoom.

5. 面接・テスト等の日時・場所

Interviews will take place on Zoom between November 1, Mon and November 5, Fri.

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

Send an email to:

nishiguchi@res.otaru-uc.ac.jp

with a subject line ``seminar''. Include the following information: your student ID, name, email address, research interest and available time slots for interview.

7. オープンゼミの日時・場所（予定）

- Linguists and economists group: Sep 30, Oct 7, 14, 21 Thu, 2:30pm-4:50pm
- Computer scientists group: Sep 30, Oct 7, 14, 21 Thu, 6pm-7:30pm

教 員 名 ホルスト マーク

1. 研究主題

社会言語学: 社会的要因（地位、性別、年齢など）がどう人々が言語を使用する方法に影響するかを研究します。

2. 指導要領

このゼミは以下の人々に特に向いています：外国語の勉強が楽しい・異文化コミュニケーションに興味を持っている人・将来英語の教師として仕事がしたい人。

What do we study?

- Have you ever thought about how your language changes when you talk to different people?
- Have you ever considered why Japanese & Korean have honorific language (敬語) but French & English do not?
- Have you ever wondered why men and women have different conversation styles?

All of these are sociolinguistic questions. If you join our seminar you can find out the answers to these questions and many others concerning how people use language.

We investigate the **varieties** of language people use. We study how our speaking style changes according to the situation we are in, according to the people we are talking to and according to the image of ourselves we are trying to project to others (our **identity**), considering power distance (上下関係), social distance (親しみやすさ) and setting (場面／状況).

For example: In one project we record conversations between friends or family, wrote a transcript (スクリプト) and analyse what is happening in the conversation. In this way we can see how people start and end conversations, how they change speaking turn, react to each other, interrupt and the meaning of silences. We can also examine typical conversational features according to social features such as gender, age, relationships.

This seminar has three goals:

- (1) To introduce students to **sociolinguistics** (社会言語学) by exploring: (i) how the speaking situation affects the language we use (dialect, language style, politeness); (ii) how these factors affect second language learning.
- (2) To develop students' research skills through collecting and analyzing written and spoken language data. Our research methods are: observing and recording natural conversations; analyzing online video and audio resources to understand about identity and language use; surveying and interviewing people on their language use.
- (3) To develop students' reading, writing and communication skills in **English**, and develop critical thinking skills. The main language of our seminar is English, so good English skills are important. The aim is to have a positive and relaxed learning atmosphere. この授業の目標は社会言語学の理解なので、日本語を用いて理解を深めることもしています。

What is the Class Content?

3rd year: Each week before class, everyone reads about an aspect of sociolinguistics. In class, one person makes a presentation about the topic, after which we discuss it, considering examples from various languages, then write about it for homework. Also, each semester students do a group project investigating how people use language in real situations, and present their findings in the last class.

4th year: Each student carries out a research project on language in use or language learning which they write up for their graduation paper. _____

Who might this seminar be useful to?

- Students who have curiosity about languages and learning languages.
- People who like discussing language and cultural based topics.
- Students taking their English teaching license.
- Students specializing in global management (グローバルマネジメント副専攻プログラム)

Why should you join us?

If you take this seminar you will be able to:

- Improve your written and oral English skills to give you more opportunities in your future career.
- Get a deeper knowledge of English to help you become a more proficient English teacher.
- Develop critical thinking skills through researching, presenting and discussing academic information.
- Learn a new specialty that you can't study in other departments.

This is a busy seminar which involves a lot of reading and writing and preparation for weekly presentations and discussions, so you need energy and motivation and a willingness to learn and question. However, if you are willing to make this investment you will be able to graduate with the feeling that you have had a challenging and meaningful educational experience which will help you in your future career.

このゼミは、たくさんの読み書きと毎週のプレゼンテーションとディスカッションの準備が含まれる忙しいゼミのため、学生はエネルギーとモチベーション、積極的に学んで質問などをする意欲が必要です。しかし、あなたにこれらの努力をする意志があるのなら、やりがいのある有意義な経験をしたという思いをもって卒業することができます。それは、将来のキャリアにおいてもあなたの役に立つはずです。

3. 指導テキスト及び参考書

Wardhaugh, Ronald (2021) *An Introduction to Sociolinguistics (8th edition)*. Wiley-Blackwell.

4. 選考の方法（面接・テスト等）

- (1) 次のテーマで、英語で 500 - 800 words 以上のエッセイを提出して下さい。

Explain one aspect of language or language use that you are interested in studying and why.

10月27日（水）17.00時 にメールでエッセイを提出してください。(markaholst@icloud.com)

- (2) 英語能力、モチベーション、および思考力を評価するインタビューがあります。

5. 面接・テスト等の日時・場所

インタビュー時間: 11月1日（月）～ 11月12日（金） インタビュー場所: ゼミ室（314）又は Zoom

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

- (1) 3・4年合同ゼミです。行動毎週木曜日の 14.30-17.15 に行います。ゼミ室: 314
(2) 何か詳細が必要でしたら、ホルスト先生又はゼミ長 に連絡してください。

Mark Holst: markaholst@icloud.com 澤田 ちなみ (ゼミ長): gswcn69@gmail.com

7. オープンゼミの日時・場所（予定）

ホルストゼミ室:

Please join us for our open seminar sessions on the following days:

9月30日(木)・10月7日(木)・10月14日(木) (14:30-16:00)

We will have discussions and activities on the following topics:

- Orthography (正字法) in Japanese magazines
- How we change our speaking style according to the social situation.
- Gender differences in conversation.

教 員 名 三ツ木真実

1. 研究主題

三ツ木ゼミの研究テーマは「第二言語習得の心理学」や「外国語の学習を科学する」です。英語学習の成功や失敗に影響を与える学習者要因（学習動機、学習方法、学習スタイルなど）について研究します。自らの学習経験を振り返りながら、より効果的な外国語学習や外国語指導の在り方について、具体的な考えを持てるようになることを目標としています。

2. 指導要領

本ゼミは、英語学習や英語教育など「英語を学ぶ」または「英語を教える」ことに深い興味があり、どうしたら英語をもっと楽しく継続的に学べるか等を科学的な視点で真剣に考えることに本気でトライできる学生を対象としたゼミです。第二言語習得や英語学習、コミュニケーションと心理学に関する文献を読み、プレゼンテーション、ディスカッションに取り組みます。

前期は文献を読みながら興味のある分野を絞り込んでいきます。その中で教員や学生でディスカッションをしながら、また、自らをオートエスノグラフィー的視点から省察しながら、どのような研究を行っていくかを具体化していきます。後期は、前期に絞り込んだ興味のある研究分野について、英語で書かれた海外のトップジャーナルに掲載された先行研究の論文をレビューしながら分野の専門的知見を深めていきます。また、具体的な分析データの収集・分析（質問紙調査やインタビュー）にも実際に取り組みながら習熟していき、研究を論文化させて行くプロセスについても学んでいきます。

3. 指導テキスト及び参考書

- ・海外のトップジャーナル（TESOL Quarterly, System など）に掲載された英語論文
- ・新タ了（2019）『英語の学び方入門』 研究社。
- ・廣森友人（2015）『英語 学習のメカニズム 第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』大修館書店。
- ・新タ了・馬場今日子（2016）『はじめての第二言語習得論講義：英語学習への複眼的アプローチ』大修館書店。

4. 選考の方法（面接・テスト等）

- ・主として、英語（外国語）学習の動機づけ、学習効果の検証の研究を目指すゼミ生を募集します。
- ・英語による面接を行い、英検や TOEIC その他検定試験等の点数も考慮して選考する場合があります。

5. 面接・テスト等の日時・場所

- ・Zoom による面接を実施します。
- ・10 月 27 日（水）までに以下の QR コードに必要事項を記入し、送信してください。27 日以降、面接の日程調整の連絡をします。



三ツ木ゼミ 2022_面接希望者（現 2 年生）アンケート

6. 注意事項・履修希望者へのメッセージ

英語教員を目指す学生を優先的に選抜します。「英語が苦手だから上手になりたい」という学生を対象とはしていません。また、ゼミでの学びを意味あるものにするためには、応募の段階ですでに英語学習や英語関連の研究に対する意欲が高く、自己省察を繰り返しながら勉強や研究に取り組むマインドが必要です。